

徳島県立博物館年報

第7号 (平成9年度)

Annual Report of the Tokushima Prefectural Museum
No.7 (for the fiscal year of 1997)

目 次

I 展覧事業

1. 常設展……………2
2. 企画展……………3
3. 常設展の更新に向けての取り組み……7
4. 展示関係出版物……………8

II 調査研究事業

1. 課題調査……………12
2. 分野別（個別）調査研究……………14
3. 他機関との共同研究……………16
4. 研究成果の公表……………16
5. 研究会・学会等の開催……………18

III 資料収集保存事業

1. 購入資料……………19
2. 寄贈資料……………19
3. 寄託資料……………21
4. 資料の貸し出し……………21
5. 特筆すべき資料の受入と整理……………21
6. 館蔵資料数……………22
7. 資料収集委員会……………22
8. 文献資料の収集……………22
9. 資料データベースシステム……………23
10. 資料の燻蒸……………24

IV 普及教育事業

1. 普及行事……………25
2. 講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等
……………27
3. 博物館実習生の受け入れ……………27
4. 博物館の広報活動……………28
5. 学校教育との連携……………28
6. 博物館友の会……………29
7. 普及教育関係出版物……………30

V 管理運営

1. 組織・職員……………36
2. 予算……………37
3. 博物館協議会……………37
4. 四国地区博物館協議会及び日本博物館
協会四国支部……………38
5. 徳島県博物館協議会……………38
6. 各種委員・非常勤講師等の受諾……………38
7. 外務省長期青年招聘事業に伴う研修生
の受け入れ……………39
8. 雲南との交流……………39
9. 視察等博物館関係来訪者……………40

VI 観覧者統計……………41

VII 施設の概要

1. 沿革……………44
2. 施設の概要……………44
3. 博物館各室面積……………46

VIII 例規……………48

I 展 覧 事 業

博物館での展示は、常設展と企画展から成る。

常設展は、徳島の自然、歴史、文化、自然のしくみ等が概観でき、また、全国的・世界的なかかわりについても理解できるよう、いろいろなテーマを定めて展示している。部分的な展示替えや資料の入れ替えは随時行っているが、基本的な展示の構成は当分の間変わらない。しかし、開館8年目に入り、常設展の更新（リニューアル）をどう図っていくかが大きな課題となっている。

企画展は、専用の企画展示室を使って年3～4回行うことにしている。各分野・分類群の館蔵コレクションの紹介、学芸員の研究成果に基づく地域自然誌や文化の紹介、全国的あるいは世界的な広がりや資料の展示など様々なテーマをおりませ、数年先までのスケジュールをたてて計画的に取り組んでいる。

1. 常設展

(1) 常設展の構成

博物館の常設展示は、総合展示、部門展示およびラプラタ記念ホールの展示の3つから構成されている。

●総合展示

「徳島の自然と歴史」を総合テーマとし、徳島の歴史と文化、現在の自然の姿が概観できるよう、次の7つの大テーマにそって展示が展開されている。

1. 日本列島と四国のおいたち
2. 狩り人たちの足跡
3. ムラからクニへ
4. 古代・中世の阿波
5. 藩政のもとで
6. 近代の徳島
7. 徳島の自然とくらし

●部門展示

総合展示とはちがった角度から、分野ごとの個別的、分類的な展示を行っている。

人文：焼物のうつりかわり／阿波の美術工芸／徳島の歴史・民俗資料 など

自然：いろいろな岩石／鉱物／いろいろな動物／生物の生活と自然のしくみ など

●ラプラタ記念ホールの展示

アルゼンチン共和国のラプラタ大学から寄贈された南アメリカ特有の更新世哺乳動物化石を展示している。

主な展示資料：

- メガテリウム全身骨格（レプリカ）
- パノクツス全身骨格及び甲羅
- マクラウケニア全身骨格（レプリカ）
- トクソドン全身骨格（レプリカ）
- スミロドン全身骨格（レプリカ）
- ヒッピディオオン全身骨格（レプリカ）
- ステゴマストドン頭骨（レプリカ）

(2) 部門展示の展示替え

部門展示（人文）では、テーマをきめて随時展示替えをしている。平成9年度は以下の展示を行った。

●近世の焼物

江戸時代に阿波国で生産された阿波焼、珉平焼、福井焼、大谷焼などの作品を展示した。

●庸八焼

阿波の焼き物の展示の一環として、館蔵の庸八焼の代表作品を展示した。これは焼物収集家の故豊田進氏の旧蔵品である。

●吉野川の川舟

吉野川では、古くから鮎漁などに「カンドリ舟」が使用されてきた。この舟の新造舟の寄贈を受けたのを機会に、現在ほとんど見られなくなった吉野川の川舟を紹介した。

●稲作の道具

昭和前半期まで徳島市内で使われていた一連の稲作道具を展示し、作業行程を紹介した。動力機械化される前の稲作の様子や、道具の変遷にみられる人々の工夫のあとを示した。

●失われた伝統—民衆芸能の世界—

かつては民衆の生活に溶けこみ、今では忘れ去られている門付芸・大道芸について紹介した。次の2つの小テーマを設定し、関連資料を展示した。

- ① 中世・近世の民衆芸能
- ② 阿波の伝統芸能—人形つかい

●文化財をまもる—博物館の保存科学—

博物館の裏側でたゆみなく続けられている文化財を守るための努力の一端を、「保存科学」にスポットを

あて紹介した。次の小テーマを設定し、関連資料・機器などを展示した。

- ①文化財の大敵／②博物館の裏側／③さまざまな調査／④出土遺物の保存

2. 企画展

平成9年度は、次の3回の企画展を行った。

(1) 第1回企画展「阿波の近世絵画—画壇をささえた御用絵師たち—」

江戸時代には、幕府や大名たちが絵の仕事をさせるために御用絵師を召し抱えていた。阿波の蜂須賀家でも、元禄ころから彼らの存在が知られ、幕末には幾人かの実力のある絵師が輩出した。

阿波の御用絵師については未紹介の作品・史料がまだ多い。この企画展では、彼らを狩野派、住吉派、文人画系の流派に分け、作品と関係史料を展示した。

●期間 平成9年4月22日(火)～5月18日(日)

●会場 博物館企画展示室

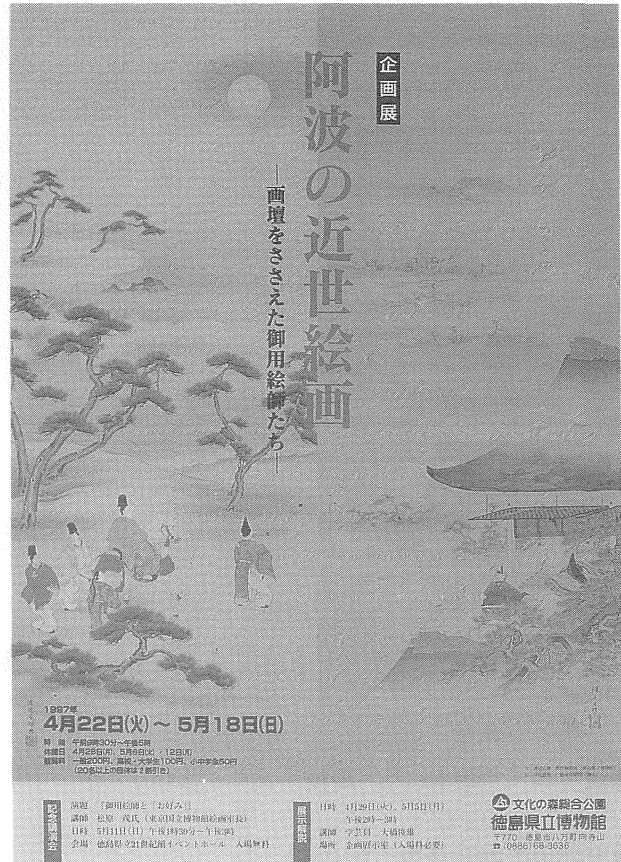
●展示内容と主な展示資料

①狩野宗家

- ・狩野探幽筆 漢武帝・林和靖・西王母図(東京国立博物館蔵)ほか

②狩野派

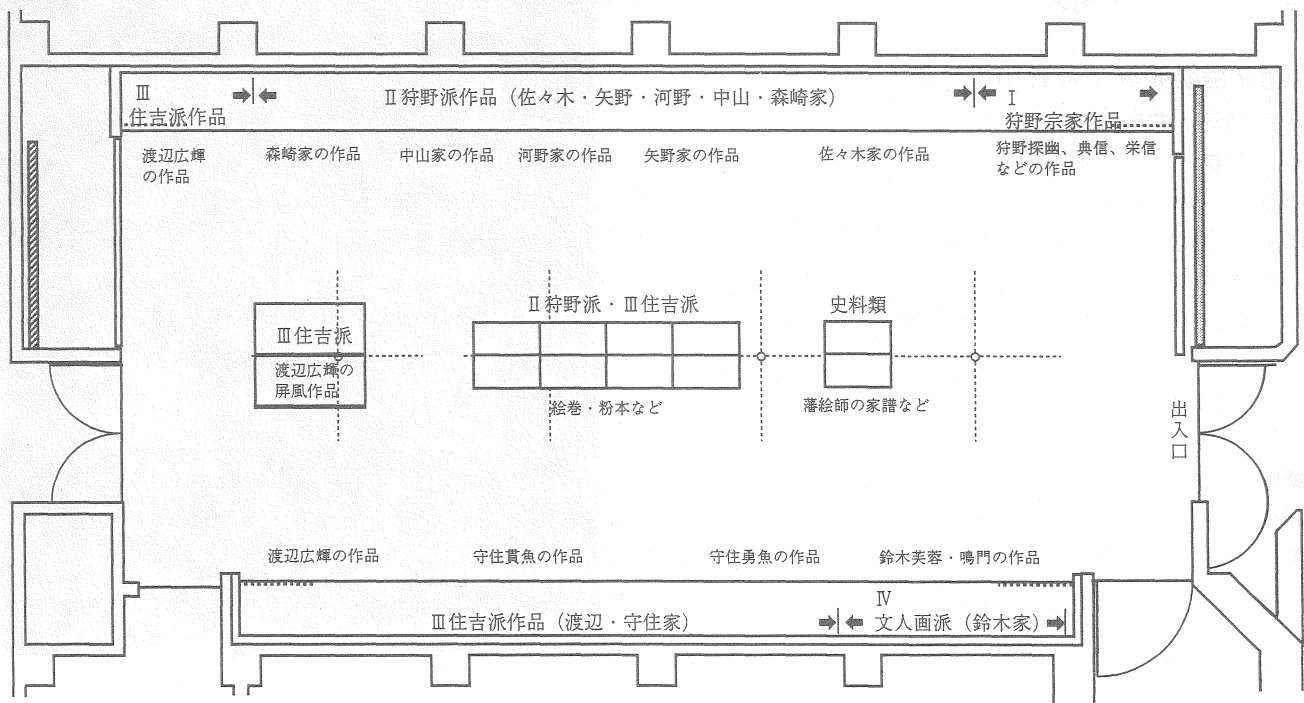
- ・佐々木信之丞筆 涅槃図(観音寺蔵)
- ・矢野常博筆 釈迦十六善神像(丈六寺蔵)

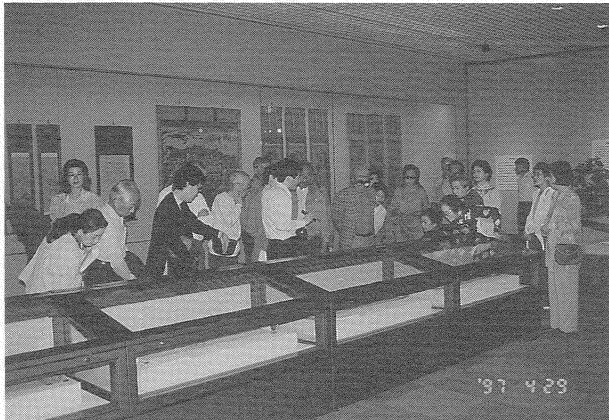


- ・中山養福筆 白鷺図(個人蔵)ほか

③住吉派

- ・渡辺広輝筆 光格帝修学院行幸儀仗図(個人蔵)
- ・守住貫魚筆 新町橋渡初図(個人蔵)
- ・守住貫魚筆 初音図(逸翁美術館蔵)





企画展「阿波の近世絵画」展示解説



企画展「阿波の近世絵画」記念講演会
(講師は松原 茂氏)

・ 守住勇魚筆 武具・文具曝涼図屏風 (川島織物文化館蔵) ほか

④ 文人画派

・ 鈴木芙蓉筆 那智山大瀑雨景図 (静嘉堂文庫美術館蔵)
・ 鈴木鳴門筆 林和靖図 (当館蔵) ほか

● 観覧料 一般400円/高校・大学生200円/小・中学生100円

● 期間中の観覧者数 2,400人

● 記念講演会 5月11日(日)

講師: 松原 茂氏 (東京国立博物館絵画室長)

演題: 御用絵師と「お好み」

会場: 21世紀館イベントホール

入場者: 92人

● 企画展解説

4月29日(火) 参加者55人

5月5日(月) 参加者35人

(2) 第2回企画展「吉野川の自然」

吉野川は、流域規模や人々の暮らしとの結び付きの深さから見ても、徳島県はもとより四国を代表する河川である。本企画展では、吉野川にくらす様々な生きものを中心に上げると共に、川と人との関わりとして川漁と川舟を取り上げた。とくに川舟については、吉野川で使用されている川舟が他地域の川舟とどのように異なるのか、比較して展示した。また、地質学的な時間スケールにおいて吉野川がどのような変遷を経てできてきたのか、その歴史も振り返ってみた。

● 期間 平成9年7月18日(金)～8月31日(日)

● 会場 博物館企画展示室

● 展示内容

- ① 吉野川のおいたち
- ② 川原の生きもの
- ③ 吉野川の魚

④ 河口の生きもの

⑤ 川漁と川舟

● 資料借用先

平塚市博物館 (相模川のサンパ舟および漁具)

広島県歴史民俗史料館 (江の川の川舟および漁具)

● おもな展示品 (上記以外)

吉野川流域の岩石・化石

阿波国絵図

吉野川流域の動植物標本

魚類の水槽展示

カンドリ舟および漁具

1997年

7月18日(金)～8月31日(日)

時間 午前9時30分～午後5時
 休館日 7月22日(火)・28日(月)
 8月4日(月)・11日(月)・18日(月)・25日(月)
 観覧料 一般200円、高校・大学生100円、小・中学生50円
 (20名以上の団体は2割引)

企画展

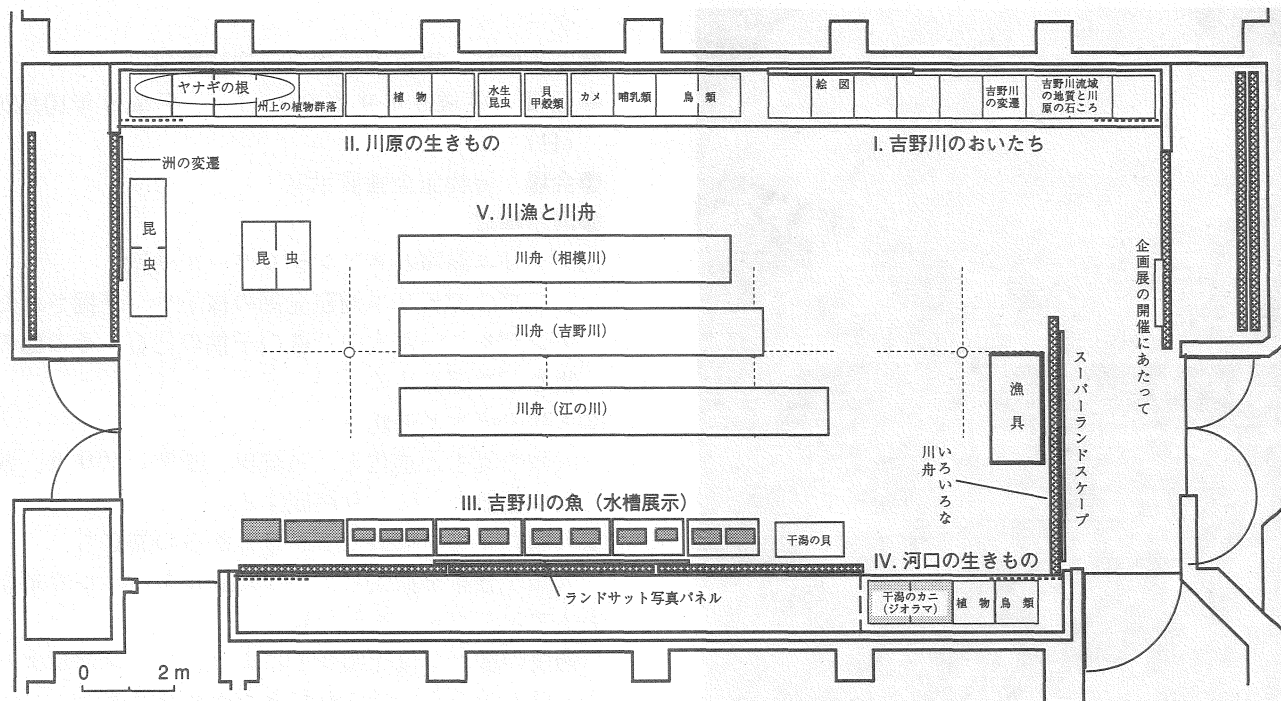
吉野川の自然

吉野川の国、徳島
 そこにくらす
 多彩な生きものたち

記念シンポジウム「川と人の環境誌」
 講師 水野信彦 (愛媛大学名誉教授)
 渡井健二 (摂南大学工学部教授)
 中村大士 (北海道大学農学部助教授)
 船田健一 (滋賀県立琵琶湖博物館主任学芸員)
 日時 8月10日(日) 午後1時～4時
 会場 徳島県立21世紀館イベントホール (入場無料)

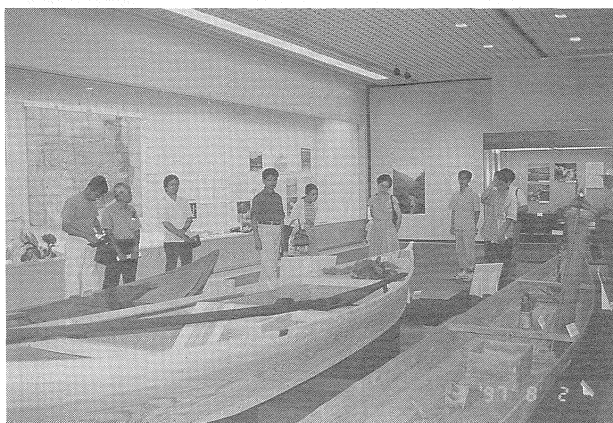
展示解説
 講師 佐藤親一 (徳島県立博物館主任学芸員)
 日時 7月21日(月) 午後2時～3時
 会場 企画展示室 (観覧料必要)

徳島県文化の森総合公園
徳島県立博物館
 〒770 徳島市八万町向寺山
 TEL (0886)68-3636



- 観覧料 大人200円／高校・大学生100円／小・中学生50円
- 期間中の観覧者数 5,173人

- 記念シンポジウム 8月10日(日)
 テーマ「川と人の環境誌」
 講師：水野信彦(愛媛大学名誉教授)
 澤井健二(摂南大学工学部教授)
 中村太士(北海道大学農学部林学科助教授)
 脇田健一(滋賀県立琵琶湖博物館主任学芸員)
 司会：鎌田磨人(博物館主任学芸員)
 会場：21世紀館イベントホール
 入場者：119人
- 企画展解説 7月21日(月) 参加者40人



企画展「吉野川の自然」の会場風景



企画展「吉野川の自然」記念シンポジウム

(3) 第3回企画展「ネアンデルタール人の復活」

人類の進化に関する研究のうち、新人へと進化する過程に関しては2つの説があり論争が続いている。ひとつは、ユーラシア各地に移住した原人(ホモ・エレクトス)から進化したとする“多地域進化説”であり、もうひとつは、アフリカで誕生した新人が再びユーラシア各地に移住し、先住の原人の子孫(ネアンデルタール人など)と入れ替わったとする“アフリカ起源説”である。こうした論争と関連し、近年、ネアンデルタール人の再検討が進んでいる。

本展覧会は、デデリエ洞窟発掘日本・シリア合同調査隊の成果を紹介するとともに、発掘された男児の全身骨格の学際的共同研究に基づき、ネアンデルタール人がどのような姿でどのような生活をしてきたかを魅らせることにより、ネアンデルタール人の実像に迫ろうという趣旨で、東京大学総合研究博物館が企画し、同館において平成7年11月8日から12月24日まで開催



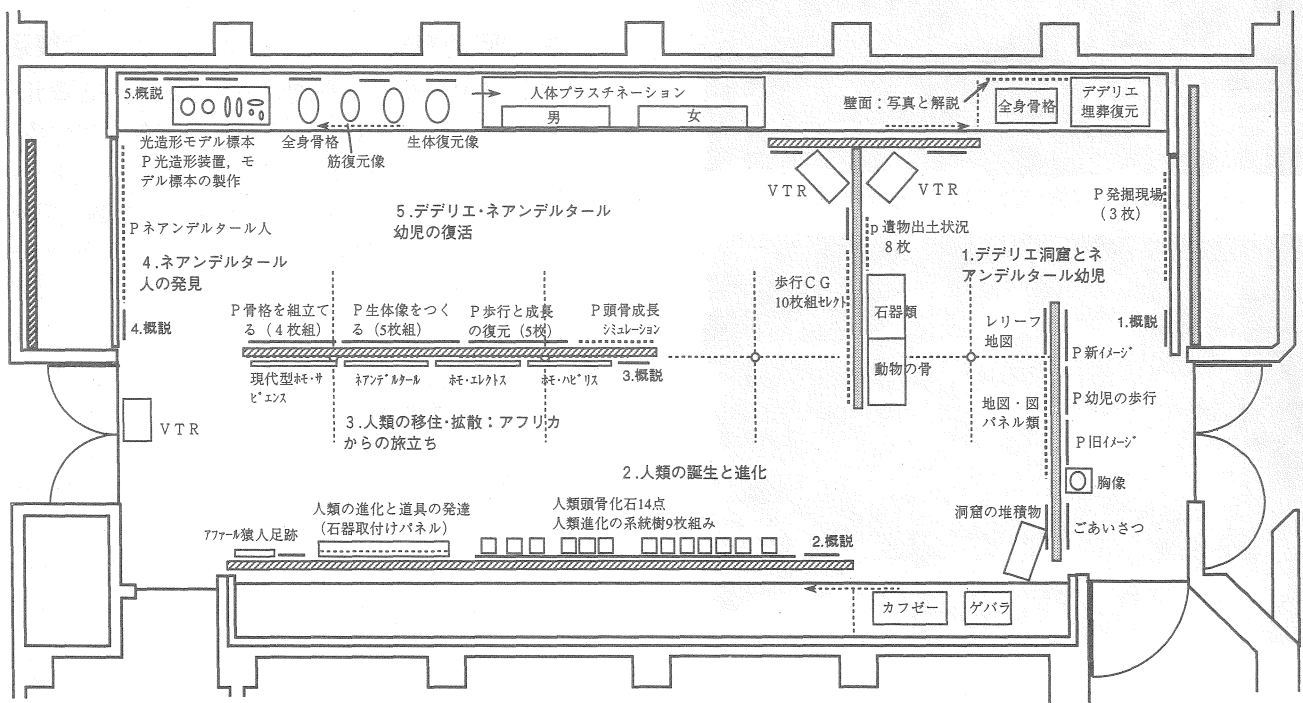
された特別展の内容を基本にしている。

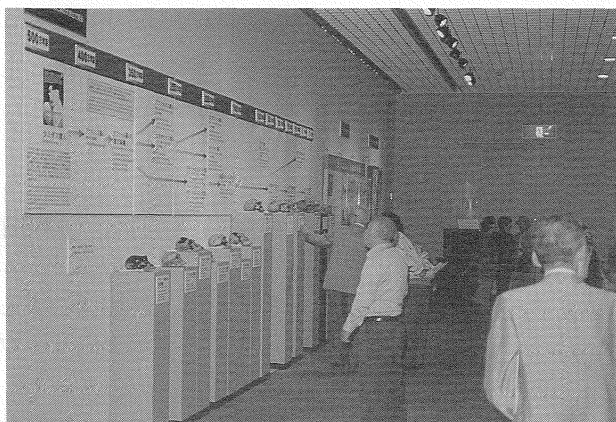
その後、平成8～10年にわたって全国約10会場を巡回することになったもので、当館では一部資料を変更して構成し、開催した。

●主催 徳島県立博物館・(株)ジャパン通信情報セン

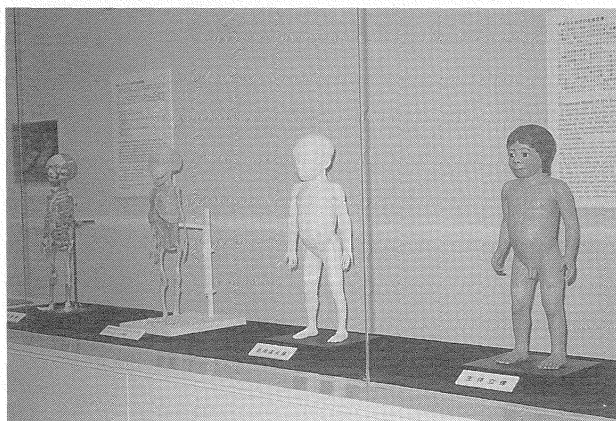
ター

- 企画監修 東京大学総合研究博物館
- 期間 平成9年9月20日（土）～平成9年10月26日（日）
- 会場 博物館企画展示室
- 展示構成
 - ①デデリエ洞窟とネアンデルタール幼児
シリアのデデリエ洞窟発掘の様子や、発掘されたネアンデルタール人の2歳の子供の化石、その他の遺物などを紹介する。
 - ②人類の誕生と進化
人類の誕生と進化を、系統樹、頭骨レプリカ、各時代の石器などにより概観する。
 - ③人類の移住・拡散：アフリカからの旅立ち
人類が分布を拡大していった過程をパネルで紹介。
 - ④ネアンデルタール人とは
過去の様々な復元図などにより、ネアンデルタール人はどのように見られてきたか紹介する。
 - ⑤デデリエ・ネアンデルタール幼児の復活
ハイテクを駆使した科学的方法でネアンデルタール人幼児を復元した過程や、その成果にもとづくネアンデルタール人像を、ビデオやプラスチックネーション（人体の断面スライス標本）などを交えて紹介する。
- 主な展示資料
 - デデリエ幼児全身骨格
 - デデリエ幼児埋葬状態復元（レプリカ）
 - デデリエ洞窟から発掘された石器や動物の骨
 - ゲバラ・カフゼー人骨埋葬復元（レプリカ）





企画展「ネアンデルタール人の復活」の会場風景



復元されたネアンデルタール幼児の展示コーナー

人類の化石頭骨（レプリカ）
 アファール猿人の足跡化石（レプリカ）
 2歳の男児と女児のプラスチネーション標本
 復元されたデダリエ幼児の全身骨格
 デダリエ幼児の筋復元像および彫像

- 観覧料 一般200円／高校・大学生100円／小・中学生50円
- 期間中の観覧者数 4,621人
- 記念講演会 10月12日（日）
 講師：馬場悠男氏（国立科学博物館人類研究部長）
 演題：私たちはアフリカで生まれ、そしてアジアで育った
 会場：21世紀館イベントホール
 入場者：96人
- 企画展解説 10月19日（日） 参加者28人

3. 常設展の更新に向けての取り組み

当館では、開館10周年を機に常設展の全面更新を実現したいと考え、開館5年目にあたる平成7年度から館内での検討を行ってきた。

(1) 8年度までの取り組みの概要

●平成7年度

当館の基本理念（1：郷土に根ざし世界に広がる博物館、2：開かれた博物館、3：研究を大切にする博物館、4：文化財を守り自然の保全をめざす博物館）に基づいた博物館のあり方、それを踏まえた常設展の基本方向について検討した。その結果、新常設展では、「山」、「川」、「里」、「まち」、「海」といった人間の生活が営まれてきた空間区分による大テーマを設定して、自然と人間のくらしの有機的関連性を追求するという、総合博物館としての特性を活かした展示を目指すことになった。

●平成8年度

展示コンセプトの再検討や展示内容についての討議を行ったが、明確なイメージづくりには至らなかった。「自然と人間のくらしの関わり」という方向性の中では扱いにくい美術工芸分野の資料の展示や、自然史分野での分類展示などの必要性も提起された。

こうした検討と並行して来館者及び友の会会員を対象に、現行常設展に対する感想を求めるアンケートを実施した。また、展示更新の参考になる新設館や展示更新実施館の視察も行い、展示構想の参考にした。

(2) 常設展更新基本計画（案）のとりまとめ

平成9年4～5月には、展示内容の具体化に向けて集中的に検討を繰り返した。自然・人文各課単位及び学芸員全体の2段階で討議し、内容の整理を行った。実際にどのような資料や展示技法を用いて展示を構成するのかという、かなり詳細なレベルまで議論し、テーマ・内容のふるい分けを行った。

その結果、5月末～6月上旬には、展示テーマと各テーマの総括責任者、展示室スペース配分計画を決定するに至った（ただし、ラプラタ記念ホールのスペースの利用については複数案併記に留まった）。これらの内容について、館全体での承認を得た後、「徳島県立博物館常設展更新基本計画（案）」としてとりまとめた。その内容は、趣旨、常設展の更新の必要性、常設展の現状と問題点、常設展更新の基本方向、常設展更新事業の年次計画、展示テーマ一覧（9～11ページ参照）からなる（年次計画及びテーマ一覧以外は、年

報6号に記載した内容と概ね同じ)。

(3) 事業化に向けての取り組み

9年度は、常設展更新基本計画(案)をまとめた後、開館10周年に当たる平成12年での常設展更新の実現をめざし、次のような取り組みを行った。

●博物館協議会・資料収集委員会への説明

基本計画(案)に対する外部有識者からの意見を伺うため、博物館協議会(8月)及び資料収集委員会(9月)で説明する機会をもった。更新の基本方向については、基本的には賛同する意見が多く得られた。

●基本計画作成のための調査業務委託

基本計画(案)は、基本的な考え方や展示テーマを文章や表でまとめただけで、館外へのアピール力は不十分である。そこで、展示設計業者2社に委託して、視点の整理、視覚に訴える図表の作成、展示更新費用の積算、作業工程計画等の諸資料の整備を行った。

●視察

展示検討委員会の設置と運営、予算要求・契約・施工監理等についての経験を聞くため、新装オープン間もない鹿児島県歴史資料センター黎明館を視察した。また、展示手法等の調査のための博物館視察も随時行った。

●事業化の状況

上記のような取り組みを重ね、必要な資料を整えた上で、平成12年度のリニューアルオープンに向けて、10年度に展示の基本設計・実施設計を行うための予算要求を行った。しかし、厳しい財政事情のもと、事業化は認められなかった。

また、開館10周年での常設展更新という案と平行して、学校週5日制が完全実施される平成15年(2003年)に合わせた常設展更新という案も模索したが、明確な方向性は得られなかった。

「ネアンデルタール人の復活」(A4判44ページ、全ページカラー)を400部買い取って、寄贈・交換用として使用した(販売用は友の会が別途購入)。

■英文展示案内リーフレット

1998年3月20日発行、A3変形判四ツ折、1,000部
現行の常設展では、中テーマ解説パネルのタイトルに英文タイトルが併記してあるほかは、外国語による解説はない。それを補うため、英文の展示案内リーフレットをつくった。

内容は、昨年度に作成した英文展示解説書を簡略化したもので、大テーマの英文概説および中テーマタイトルの英文表記をまとめたものである。

4. 展示関係出版物

■企画展図録・解説書

●第1回企画展図録「阿波の近世絵画一画壇をささえた御用絵師たち」

1997年4月22日発行、A4判84ページ(29カラーページ)、700部+友の会増刷分300部

●第2回企画展解説書「吉野川の自然」

1997年7月18日発行、B5判44ページ(24カラーページ)、700部+友の会増刷分300部

●第3回企画展解説書「ネアンデルタール人の復活」

ジャパン通信社1996年10月10日発行の解説書「ネア

新常設展「徳島の自然とくらし」展示テーマ一覧（案）

1. 四国のなりたち

中テーマ	小テーマ	細目	備考
11 四国最古の化石と岩石	111 古生代中頃の陸と海		シルル紀～デボン紀。保存のよい外国産化石も入れる。
	112 プレートテクトニクスと日本列島		
12 付加体の地質	121 領家帯		花崗岩のような岩石が中心。
	122 三波川帯		
	123 黒瀬川帯		メランジェの露頭レプリカ入れる。
	124 秩父帯		
	125 四万十帯		褶曲した露頭のレプリカ入れる。
13 白亜紀の陸と海	131 勝浦盆地の化石		イグアノドンの全身骨格標本入れる。
	132 和泉層群の化石		
14 新第三紀の海	141 第一瀬戸内海		
	142 太平洋岸の第三紀層と化石		高知県穴内層・登層産化石。
15 氷河時代の徳島	151 鳴門海峡の化石		中心は鳴門海峡産ナウマンゾウ。
	152 徳島の旧石器		
16 中央構造線			
特 南アメリカの古脊椎動物			現行のラプラタ記念ホール展示資料。

2. 山

21 山の生きもの	211 亜高山の生物	亜高山の植物 花を訪れる昆虫 ヒルトッピングする昆虫 ダケカンバにつく昆虫	
	212 ブナ林の生物	ブナ林 ブナを利用する生物 ブナ林の動物たち	ジオラマ。 ブナの部位等とそれを利用する生物。 哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類など。
22 山の利用	221 さまざまな生業	ブナ林の利用 作られた草原と生物 草地の利用 畑 狩猟	木地師、山樵。 落合峠。草原の植物。ススキの減少に伴い減った蝶。 ススキの刈り取り。屋根葺き道具。耕作具。 狩猟道具。イノシシ、クマの剥製。古屋岩陰遺跡。
	222 衣と食	衣服 食事	太布、荒妙。 炉端風展示コーナー。食材。
	223 峠をこえた交易	行商 伝説	刃物、鏝掛屋。
23 徳島の鉱山	231 鉱山の開発		鉱物、鉱山開発関係資料。
	232 辰砂を掘るー若杉山遺跡		
24 地滑り地に生きる	241 地滑り地の利用		
	242 棚田の風景ー上勝町		絵図。写真。

3. 川

31 吉野川のなりたち	311 吉野川の変遷		
	312 徳島平野の発達		

32 川の生きもの	321 水の中の世界	上流域 瀬	ジオラマ。
	322 溪流沿いの植物		
	323 川原の生物		
	324 吉野川の干潟		ジオラマ。
	325 川と生物の分布	水系別の魚類分布 吉野川が隔てる昆虫の分布	
	326 回遊する生物		
33 川とくらし	331 漁		アユ、ウナギ、ジンゾク、カニ。カンドリ舟。
	332 水の利用		川辺の洗濯・水汲みの場所のイメージを再現。
	333 水辺の神々	祈りのさまざま カッパの世界	形代のまつり（古代・中世）、水口のまつり、盆棚、雨ごい。
	334 洪水とくらし		家屋の形態、洪水跡（家屋に遺る痕跡の模型or水位を示す石造物の複製）、橋、映像。
34 川の往来			古代；大豆処図。中世；離宮八幡宮文書、近世～；筏すごろく、川舟。

4. 里

41 田んぼの風景	411 田んぼの四季	レンゲ畑 田植え（初夏） 成長期（夏） ため池（夏） 収穫期（秋） 冬の田んぼ	農具は黒子に持たせる+農作業風景写真・絵画。水取り口復元。 農具。 農具。 地面の中の動物の生活。
	412 変わりゆく田んぼ		コンクリートの水路、圃場整備、RDBに挙がる生物。
	413 農具の移り変わり		脱穀機の例。
42 稲作の発達	421 水田のはじまり	最初の水田 銅鐸のまつり	弥生農耕関係資料、弥生の農具・現代の農具…鋤・鍬の形態を対比。 銅鐸製作工程を映像に。
	422 耕地の拡大	平野の開発の進展 新田と用水の開発	古代の新島庄、中世の富田庄。 辰巳新田、用水の歴史。
43 ムラのくらし	431 ムラの風景	近世農村の構成 ムラの景観	検地帳・棟付帳。身分と差別。 名西郡白鳥村絵図、家屋模型。
	432 ムラの日々	年中行事 信仰文化 日常の食事	正月、秋の地神祭、農村舞台。 中・近世石造物、まじない（護符、呪法書）。
	433 行き交う人・ひと・ひと…		人形つかい（芸能と差別の問題）、遍路、六部、山伏。
44 身近な森と林	441 鎮守の森		現行の照葉樹林ジオラマの転用。ツチトリモチ、ヤッコソウなども追加。
	442 里山の利用		ジオラマ。竹細工など。

5. まち

51 城下町	511 城下町の景観		俯瞰図・絵図写真。新町橋渡初之図。
	512 町屋と民衆		町屋の風景や風俗・あそびの画像化。陶工庸八を主人公とする民衆のくらし物語（映像）。

52 伝統のわざ	521 藍染		染料としての藍、藍染の工程、帳場風展示台における藍染展示。
	522 人形師と人形頭		現行の天狗久工房の利用。頭の展示もあわせて。
53 近代都市の風景			戦前徳島市俯瞰模型と写真。映像；戦前の風景→空襲→復興。実物資料；写真、絵はがき、看板、引き札、戦争資料など。
54 都市化と現代の生活	541 市街地の拡大		地図と空中写真。
	542 暮らしの移り変わり		学校給食、おもちゃ、アニメなど。
	543 ゴミはどこへ？	くらしとゴミ 水はよみがえるか	縄文貝塚と現代ゴミ捨て場の対比。 水質汚染。
55 まちの生きもの	551 帰化生物		家－軒先－庭－塀－道路がセットになるような断面をつくり、生物を配置。
	552 宅地の生物		

6. 海

61 海辺の生きもの	612 浜辺の生物		ジオラマ。
	613 磯の生物		ジオラマ。
	614 造礁性サンゴ域		竹が島、大島周辺
62 海とくらし	621 海のめぐみ		原始；貝塚、土錘。潜水漁業。船の漁業；道具と魚…市場風の展示コーナー。船の模型と網の組み合わせ。鯉節。
	622 漁村のくらし	すまいの風景 まつり	住居の部分復元（表側～玄関）。まじない（魔除けの貝など）。大漁旗による演出と映像。
63 海の道	631 行き交う人とモノ		古代；木簡、土佐日記。中世；兵庫北関入船納帳、銭、陶磁器、海東諸国紀。近世～；陶磁器、いただきさん、テグス船。
	632 黒潮街道	海の道の古代 漂着物 黒潮沿いに分布する生物	古語拾遺。 オオウナギ、タカラガイ、イモガイ、アコウなど。

7. いろいろな生きもの

71 いろいろな動物たち	711 昆虫	分類、トビックス	世界の甲虫、チョウなど、カブトムシ拡大模型。
	712 軟体動物	分類、トビックス	世界の貝、貝拡大模型など。アンモナイト化石も。
	713 甲殻類	分類、トビックス	エビ、カニなど。
	714 刺胞動物	分類	クラゲ液浸標本、サンゴなど。
	715 その他	分類	クモなど。
72 生物のおもしろさ	721 かたち	形態変換	ネコの縞模様、貝の水玉模様。 グループ別種数パイグラフ。
	722 模様	縞模様、水玉模様	
	723 種数		

8. フリースペース

新着資料紹介、ミニ企画など

Ⅱ 調査研究事業

調査研究は、博物館における諸活動の根底をなすものである。それは、質の高い調査研究に裏付けられてこそ、最新の情報を盛り込んだ展示や質の高いコレクション、内容豊かな普及行事が可能となるからである。

当館の調査研究事業には、複数の学芸員グループで、必要に応じては館外の研究者も含めて、特定のテーマを定めて年度単位で集中的に取り組む課題調査、各学芸員がそれぞれの分野や専門とするテーマに基づいて日常的に取り組んでいる個別調査研究、翌々年以降に予定されている企画展のための事前資料調査などがある。

現在、館長と13名の学芸スタッフがこの業務に携わっている。また、普及係の2名（教員）もそれぞれの専門を生かした調査研究を行っている。

1. 課題調査

平成9年度は、次の4つの課題調査を行った。

(1) 黒潮の道—南九州の自然と民俗—

前年度の奄美大島地方に引き続き、黒潮に関する調査として鹿児島県を中心として周辺島嶼の自然史、民俗などの調査を行った。また、一部は沖縄県の八重山地方にも足をのばして追加調査を行った。

●調査メンバー

亀井節夫（館長・地学）・大原賢二（昆虫）・小川誠（植物）・中尾賢一（地学）・庄武憲子（民俗）・長谷川賢二（歴史）・魚島純一（考古）

●調査日程

第1回：9月12～17日、鹿児島県枕崎市—坊津町（庄武）

第2回：1月21～28日、種子島（中尾）

第3回：3月2～7日、種子島・屋久島（小川）

第4回：3月13～18日、鹿児島市・甌島・金峰町・加世田市・坊津町・枕崎市・指宿市・国分市（亀井・魚島）

第5回：3月26～31日、石垣島（大原）

●おもな調査内容

- ・南九州の動植物相の調査及び資料収集
- ・種子島の化石調査

- ・海岸の漂着物の調査
- ・南薩地方の祭りの調査
- ・甌島の資料館、吹上浜の海岸地形調査
- ・加世田市と金峰町の遺跡調査
- ・指宿市の遺跡調査
- ・国分市の上野原遺跡調査

(2) 水辺の生活と環境

徳島県内には多様な水辺環境が存在している。こうした水辺の環境における人々のくらしと、それを支えてきた環境とその変遷を把握することを目的に、8年度に引き続き調査を行った。9年度は主に吉野川上流域の聞き取りと、水の利用の一形態として上勝町の棚田についての調査を行った。

また、吉野川と那賀川流域で聞かれる水神としての要素をもつ河童伝承の分布と地域性に焦点をあて、両地域の川と人とのつきあい方の差異を分析中である。

●調査メンバー

博物館学芸員：鎌田磨人（植物）・長谷川賢二（歴史）・庄武憲子（民俗）

館外調査者：山中英生（徳島大学工学部教授）・山口行一（徳島大学工学部助手）・上月康則（徳島大学工学部講師）・福田珠己（大阪府立大学総合科学部講師）

●調査の日程と概要

8月13～14日：木頭村、上那賀町、相生町、鷲敷町で盆行事にみられる川辺の水祭りについての聞き取り調査を行った。（庄武）

1月24～25日：上勝町の棚田の水路と水管理についての聞き取り調査、周辺環境の調査を行った。（鎌田・山中・山口・上月）

3月4～7日：上勝町での聞き取り調査（福田）
・棚田水路の流路、水管理についての聞き取り調査および環境認識についての把握

3月26～31日：三加茂町、池田町、山城町、西祖谷山村での聞き取り調査（庄武）

- ・河童を中心とする水辺にいると考えられてきた妖怪の伝承についての分布調査
- ・農業・生活用水、川漁、水遊び等、川とのつきあい方についての調査
- ・水への信仰、川辺での祭についての調査



那賀川河岸でのヒトボシ（木頭村和無田 1997. 8. 17）
那賀川上流域では8月14日の早朝、盆行事の一環として
川原で火をたく。先祖の霊を川から迎えるためという。
（課題調査「水辺の生活と環境」より）

・水系の景観と環境の変化についての調査

(3) 中世荘園の景観復元—櫛瀨荘の調査—

中世社会に広汎に分布していた荘園は、支配の単位であると同時に、民衆の日常生活や生産の舞台でもあった。それゆえ、当時の人々の生活の様相を具体的にとらえるためには、荘園の景観を把握することが重要である。

しかしながら、中世の景観が今日に至るまで不変であることはありえないし、そこに人間の生活がある限り、変化は無限に続くのである。そこで、中世的景観の復元のためには、できるだけ変容の小さい段階に、文献史料はもちろんのこと、現地に残された地名や石造物、道、民俗慣行等のデータを集積し、遡及的に中世の様相に接近する方法をとることになる。また同時に、文献史学、考古学、地理学、民俗学等の諸科学の成果と方法により補完し合うことも必要となる。

この課題調査では、とくに現在の小松島市櫛瀨町付近に所在した石清水八幡宮領櫛瀨荘を対象に、景観復元のための基礎的データの集積を図りたいという考えから計画したものである。この地域を選定した理由は、高度経済成長期にも大きな開発の波を受けることなく、今日に至っており、比較的古くからの景観を残していると見られるものの、近年、圃場整備が進行し、景観の変容が急速に進みつつある。そのため、中世荘園につながる要素を抽出する作業が急務と判断したためである。

●調査メンバー

博物館学芸員：長谷川賢二（歴史）・高島芳弘（考古）・庄武憲子（民俗）

館外共同調査者：徳島中世史研究会（丸山幸彦・徳島大学総合科学部教授；平井松午・徳島大学総合

科学部助教授；大石雅章・鳴門教育大学助教授；福家清司・徳島県教育委員会文化財課課長補佐；石尾和仁・徳島県埋蔵文化財センター研究員；金原祐樹・徳島県立文書館主事；須藤茂樹・徳島市立徳島城博物館学芸員；松山隆博・徳島県立板野高等学校教諭；本田昇・鳴門市教育委員会係長）、梶木良夫（神戸女子大学文学部講師）、服部英雄（九州大学大学院比較社会文化研究科教授）

●調査日程と概要

4月6日：櫛瀨荘現地調査及び『櫛瀨町史』執筆者等との史料検討

5月27日：調査検討会（福家清司氏の報告「櫛瀨の『免』地名群について」と討議、調査方針についての協議）

9月6日：調査検討会（梶木良夫氏の報告「荘園現況調査の意義と方法」と討議）

9月7日：櫛瀨荘現地調査

11月23日：県立文書館保管櫛瀨地区関係資料調査及び櫛瀨荘現地調査

11月28日：小松島市役所立江支所保管櫛瀨地区関係資料調査及び櫛瀨荘現地調査

12月6日：櫛瀨荘現地調査（水利関係聞き取り）

12月12日：小松島市役所立江支所保管櫛瀨地区関係資料調査

12月14日：櫛瀨荘現地調査（水利関係聞き取り）

2月28日：櫛瀨荘現地調査及び調査検討会（服部英雄氏の報告「荘園調査の視角と方法」と討議）

- ・中世文書、『櫛瀨町史』等既往刊行物による景観復元のためのデータ収集
- ・荘園故地における古道・寺社・金石資料の確認、関連事項の聞き取り
- ・水利に関する資料収集及び聞き取り
- ・古絵図、地籍図、都市計画図等地図情報の収集

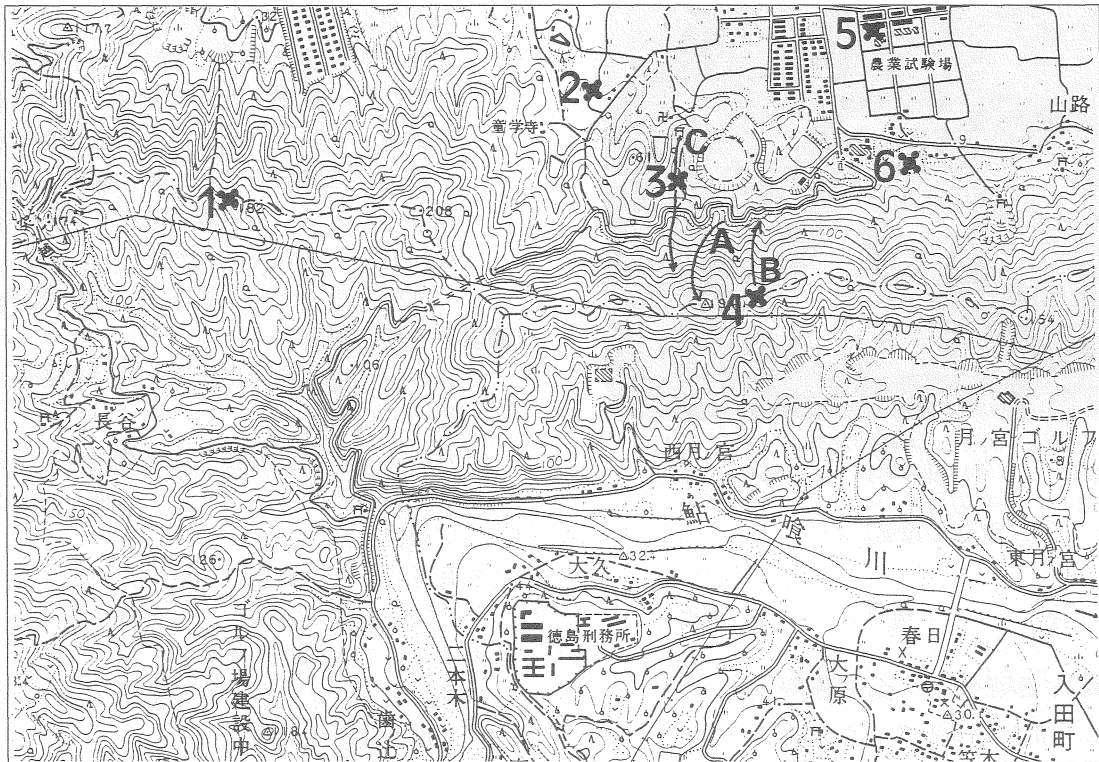
(4) 前山古墳群の調査

9年度は、平成8年2月に測量を行った前山古墳群のうちのひとつを発掘する予定であったが、四国電力の電線工事との関連で平成9～10年の間は発掘は無理ということがわかったので、発掘を延期して周辺の分布調査を行うこととした。10年度は発掘調査だけでなく、分布調査も十分に行わなければならない。

●調査メンバー

博物館：高島芳弘・魚島純一（考古）、結城孝典（普及）、北條ゆう子（文化推進員）

館外調査者：天羽利夫（徳島県教育委員会文化財課主幹）、北條芳隆（徳島大学助教授）、奈賀哲人（石井町教育委員会）



前山古墳群周辺の遺跡分布図（国土地理院発行2万5千分の1地形図「石井」を使用）

1 長谷古墳、2 石井廃寺、3 曾我氏神社古墳群、4 前山古墳群、5 清成遺跡、6 清成古墳
A～Cは分布調査のルート。

●調査日程と概要

9月25日：前山古墳群の現況確認

頭上に索道が張られて四国電力による鉄塔関連の工事が行われており、平成11年になるまでは発掘は無理と判明。

2月5日：前山古墳群関連古墳の聞き取り調査

地主の一人から前山古墳群から北へ延びる尾根上にある古墳について聞き取りを行った。新たな古墳の所在地としては前山古墳群より西寄りの尾根（Aルート）を指摘された。

3月16日：前山古墳群関連分布調査

Aルート、Bルート、Cルート（図参照）の順番で尾根上の分布調査を行った。Cルートでは、曾我氏神社1号墳及び2号墳を確認した。

●分布調査の成果

Aルート：途中から尾根をはずれて歩いたので古墳は1基も確認できなかった。1ヶ所だけ緑色片岩が10個ほど積み上げられているところがあった。

Bルート：円墳2基、方墳？1基を確認した。円墳うちの1基は尾根の上側がはっきりと整形れており、もう1基は蓋石2枚が露出し石棺を持つものである。方墳？は尾根の上方へも下方へも張り出しが延びているようであるが、墳形ははっきりとしなかった。ほかに円墳らしきものが2基あるの

が確認できた。

Cルート：石神線より上の尾根で南北に並んだ円墳2基を確認。また、このルートの最終地点付近で埴輪の破片を発見した。数多くの緑色片岩の割石も埴輪破片といっしょに出土したが、墳丘の形は不明である。そのほか、Cルートには4基ほど古墳があるようであるが形態ははっきりとしなかった。

2. 分野別（個別）調査研究

大原賢二（動物・昆虫）

①日本産ハナアブ科の分類学的研究

日本産ハナアブ科の族間の系統関係を研究した。

②日本産シュモクバエ科の生活史の調査

昨年度に引き続き、日本産のシュモクバエ科の生活史の調査を行ったが、同一時期にも関わらず、ほとんど成虫がおらず、産卵行動や交尾行動などの調査を行えなかった。

佐藤陽一（動物・脊椎動物）

①県内の淡水魚類相調査

県下の淡水魚類相調査の一環として、勝浦川水系、日和佐川、牟岐川などで計15日間の調査を行った。

この調査は県環境政策課が平成7年度（淡水魚分科会は平成8年度）から実施している県版レッドデータブック掲載種の選定に関わる調査を兼ねたものである。

②徳島県メダカ生息調査

県下の小川・水路・水田などの小水系における魚類の生息状況をモニタリングする目的で、メダカの分布調査を実施している。この調査は8年度から博物館友の会の会員に限定して調査参加者を募り、試験的に実施してきたが、9年度より募集対象を一般県民に拡大することにしたものである。

9年度末までの申込者数は43名（組）であった。調査方法は、データの確実性を期すために、申込者に保存液入りサンプル瓶と共に調査の手引き・調査票・メッシュ地図を郵送し、採集した後に標本と調査票を返送してもらう形を取っている。

田辺 力（動物・無脊椎動物）

①県産無脊椎動物相の調査

鳴門市にて海岸無脊椎動物相の調査を行った。

②日本産ヤスデ類の分類学的研究

シロケヤスデ科の新属 *Japanoparvus* を設立し、3新種を記載・報告した（Hampden-Sydney 大学 Shear 氏らと共同）。

小川 誠（植物）

①井川町の植物相調査

平成9年度阿波学会の調査の一環として、日和佐町の植物相調査を行った（赤澤時之、木村晴夫氏らと共同）。

②博物館の情報提供におけるインターネットの利用に関する技術的研究

資料の収集保存作業を通じて蓄積された情報と植物写真を組み合わせて、より簡単に効率的な情報提供を行う方法について検討した。その成果の一部は <http://www.asahi-net.or.jp/~HI1M-OGW/tokuhaku.html> で公開している。また、博物館の催し物案内電子メールサービスが10年度から運用開始された。

③ヨモギ属の分布調査

日本産ヨモギ属の分化と分布の現状を探るため、北海道と九州での分布調査を行った。

鎌田磨人（植物）

①吉野川における流域の環境変化と河川内植生との相互作用について考察するために、州上の植生の分布・構造等を調査した（徳島大学岡部健士氏らと共同）。

②河川内で分布を広げつつあるアキグミの定着プロセスを生態学的に明らかにするために、吉野川および那賀川で調査を行った（阿南高専湯城豊勝氏らと共同）。

③棚田を核とした生態系において、生物多様性を維持する方法を考えるための予備的調査を、上勝町で行った（徳島大学山中英生氏らと共同）。

両角芳郎（地学）

①日本の上部白亜系の化石層序に関する研究

阿讃山地の和泉層群から産出するディデイモセラ類アンモナイトの分類学的検討、和泉山脈の和泉層群産 *Gaudryceras izumiense* の再検討を行った。

②勝浦川流域の白亜系産化石に関する研究

立川層産の棘皮動物化石、立江層産アンモナイトの産状についての現地調査を行った。

③中央構造線の断層露頭・断層変位地形の調査

上板町～土成町にかけての阿讃山地南麓で調査を行った。

中尾賢一（地学）

①中新世～更新世の浅海棲貝化石と堆積相の調査

鹿児島県・長崎県・高知県で化石の産状と堆積相の観察を行い、堆積環境と群集の分布域を調べた。

②鳴門海峡産ナウマンゾウ化石の研究

鳴門海峡～播磨灘から採集されるナウマンゾウ化石について、部位の特定を行い、詳しい産出状況の聞き取りを行った。

③徳島県下の沖積平野の堆積学的・古生物学的研究

ポーリング柱状図・コアサンプル・貝化石などから、徳島平野・那賀川平野の形成過程および古環境を調べた。

高島芳弘（考古）

①縄文時代の石鏃の形態の変異についての調査

鮎川遺跡採集の石鏃の図化を行い、基礎資料の蓄積を行った。

②製塩関連遺跡の調査

備讃瀬戸、淡路・紀淡海峡地域の製塩関連遺跡の調査を行った。

③岩蔭遺跡の立地に関する調査

古屋岩蔭遺跡をはじめとして、岩蔭遺跡の立地に関する調査を行った。あわせて県南の岩蔭を中心に分布調査を行った。

魚島純一（保存科学・考古）

①出土木製品の保存処理に関する研究

出土木製品の保存処理について、現在行っている PEG 含浸処理法にかわる方法として、糖アルコール含浸法が有効であると考え、その予備実験をかねてテストサンプルによる処理実験などを行った。

②出土赤色顔料の同定

県内から出土した赤色顔料関係遺物の蛍光X線分析による同定を行った。

③外部依頼による調査

上勝町教育委員会の依頼を受けて赤外線テレビカメラによる棟札の判読を行った。また、徳島大学埋蔵文化財調査室、愛媛県埋蔵文化財調査センターなどの依頼を受けて、出土文化財等の X 線透過撮影による構造調査、蛍光 X 線分析による材質調査などを行った。

山川浩實（歴史）

①徳島城に関する史料調査

「徳島の自然と歴史ガイド」作成のため、国文学研究資料館所蔵の徳島城の絵図や蜂須賀家文書から徳島城についての検討を行った。

②企画展の事前資料調査

平成11年開催予定の企画展の準備の一貫として、展示資料調査と文献資料の調査を行った。

長谷川賢二（歴史）

①中世修験道史の研究

中世後期の吉野川流域における山伏集団の展開状況についての検討結果をまとめた。また、中世末から近世への修験集団の展開過程を明らかにするため、関係資料の検討を行った。

②中世荘園景観復元のための基礎資料調査

課題調査「中世荘園の景観復元－櫛淵荘の調査－」の一環として、関係資料の所在調査、地図情報の収集、水利その他の聞き取り等を行った。

③博物館・文書館による地域的資料保存ネットワークについての検討

歴史系博物館と文書館の相互連携による資料保存体制整備の意義や諸問題について検討し、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会大会で報告した。

庄武憲子（民俗）

①芋に関する習俗についての研究

南西諸島における山芋・里芋についての方名、栽培状況、儀礼などの聞き取りデータをまとめ、南西諸島の根栽農耕の伝播経路についての考察を行った。また、南西諸島から四国におけるカシユウ芋の利用状況についてのデータをまとめた（高知大学吉成直樹氏と共同）。

②徳島県内の河童伝承についての研究

課題調査「水辺の生活と環境」の一環として、県内にみられる河童伝承についての文献資料のまとめと聞き取り調査を行い、分布図を作成した。

大橋俊雄（美術工芸）

①光悦蒔絵の研究

蜂須賀家の旧蔵になる子日棚と関連作品を調査し、作者の伝承にかかわる史料を調査した。

②蒔絵師飯塚桃葉の研究

飯塚桃葉に関する史料を分析し、蜂須賀家と狩野

典信、桃葉の関係について調査した。

③徳島藩にかかわる美術作品の調査研究

藩に抱えられた絵師、工芸職人の作品について所在調査を行った。

3. 他機関との共同研究

- (財)河川環境管理財団の河川整備基金の助成による共同研究：「流域の環境変化が河道内樹木の長期的消長に及ぼす影響に関する調査・研究」（平成8～10年度）

研究代表者：岡部健士（徳島大学工学部助教授）
当館の研究分担者：鎌田磨人

- 笹川科学研究助成金による共同研究：「河川内植生の保全のための基礎的研究－州上の植物群落の成立と変化のメカニズム」（平成9年度）

研究代表者：鎌田磨人

- 国立歴史民俗博物館共同研究：「博物館資料の保存環境」（平成9～11年度）

当館の共同研究員：魚島純一

4. 研究成果の公表

(1) 徳島県立博物館研究報告第7号

1997年9月30日発行、B5判124ページ、1,200部
（*は館外著者）

鎌田磨人・山邊栄一*・岡部健士*：徳島県吉野川内の木本と土地利用型の分布－1975年のメッシュ図－。p. 1-23.

大原賢二：八重山のヒメシユモクバエ（双翅目、シユモクバエ科）。p. 25-37.

高橋弘明*・佐藤陽一・洲澤 譲*：椿泊湾流入河川の魚類相。p. 39-67.

井口利枝子*・田島正子*・和田恵次：吉野川河口域周辺におけるシオマネキとハクセンシオマネキの分布。p. 69-79.

長谷川賢二：ケガレの民俗学覚書－宮田登の所説をめぐって－。p. 101-111.

魚島純一：徳島県から出土した赤彩銅鐸。p. 113-121.

(2) 博物館ニュース“Culture Club”欄記事

長谷川賢二：沖縄・熊野信仰・補陀落渡海。No. 27, p. 2-3.

小川 誠：博物館の情報整理。No. 28, p. 2-3.

大原賢二：奇妙な昆虫－シユモクバエ。No. 29, p. 2-3.

大橋俊雄：守住貫魚についての資料. No. 30, p. 2-3.

(3) 当館刊行物以外への掲載(*印は館外の研究者)

<動物>

大原賢二 (1997. 8) 「ラクダムシ類」および「ハナアブ類」. 石井実・大谷剛・常喜豊編「日本動物大百科9, 昆虫Ⅱ」, 平凡社: 15; 132-134.

Ohara, K. (1997. 10) *Spilomyia suzukii* (Diptera, Syrphidae), captured by *Vespa analis insularis* (Hymenoptera, Vespidae). *Hanaabu* (4): 21-23.

Ohara, K. (1997. 10) Two species of the genus *Platycheirus* (Diptera, Syrphidae), newly recorded from Japan. *Hanaabu* (4): 24-26.

Ohara, K. (1997. 10) Record of *Primocerioides petri*, collected in Machida City, Tokyo. *Hanaabu* (4): 45.

佐藤陽一 (1997. 6) 私の研究：山へ登ったドジョウを追う. 猫の手帖, 20(6): 152.

佐藤陽一 (1997. 8) 「カライワシ目」および「ニシン目」. 岡村収・尼岡邦夫編「山溪カラー名鑑：日本の海水魚」, 山と渓谷社: 67; 91-93.

W. Shear*, T. Tanabe and N. Tsurusaki* (1997.4) Japanese chordeumatid millipedes, IV: The new genus *Japanoparvus* (Diplopoda, Chordeumatida, Hoffmannematidae). *Myriapodologica*, 4: 89-99.

<植物>

森本康滋*・鎌田磨人・友成孟宏*・西浦宏明*・井内久利*・石井愷義* (1997. 3) 日和佐町の植生とナカガワノギクの分布. 阿波学会・徳島県立図書館編「総合学術調査報告, 日和佐町」(阿波学会紀要43号), 徳島県立図書館: 21-41+付図.

鎌田磨人 (1997. 5) 河道内の木本群落の動態と流域環境. 土木学会四国支部平成9年度第3回技術発表会講演概要集: 77-82.

Kamada, M. and N. Nakagoshi* (1997.6) Influence of cultural factors on landscape of mountainous farm villages in western Japan. *Landscape and Urban Planning*, 37: 85-90.

鎌田磨人・山中英生*・上月康則*・澤田俊明*・福田珠己* (1997. 8) 棚田保全をめざした研究のフレームワーク. 国際景観生態学会日本支部会報, 3(5): 1-3.

中越信和*・鎌田磨人 (1997. 9) 景観システムの基礎的解析と広島県の景観構造の把握. 比婆科学 (182): 45-59.

鎌田磨人・岡部健士*・小寺郁子* (1997.10) 吉野川河道内における樹木および土地利用型の分布の変化とそれに及ぼす流域の諸環境. 環境システム研究, 25: 287-294.

木内和美*・木村晴夫*・赤澤時之*・田渕武樹*・木下覚*・真鍋邦男*・片山泰雄*・小川誠・小松研一* (1997. 3) 日和佐町の植物相. 阿波学会・徳島県立図書館編「総合学術調査報告, 日和佐町」(阿波学会紀要43号), 徳島県立図書館: 53-69.

<地学>

亀井節夫監修 (1997. 4) 「ポケットペディア：化石」, 紀伊国屋書店, 159pp.

三枝春生*・小西省吾*・亀井節夫 (1997. 6) アフリカゾウ骨格の計測結果について. 仙台市科学館報告 (7): 56-65.

亀井節夫 (1997.11) 中国・雲南にルーツを求めて, 1-3. 徳島新聞11月27, 28, 29日朝刊.

亀井節夫 (1997.11) 岩宿時代の動物たち. 京都文化博物館特別展「ヒトの来た道-人類500万年と列島最古の居住者-」展示図録別冊: 141-152.

亀井節夫 (1998. 1) クマの足跡. 足跡化石ニュース (114): 2-3.

<考古>

魚島純一 (1997. 5) 森広遺跡出土土器片に付着した赤色顔料の蛍光X線分析. 寒川町教育委員会編「森広遺跡」: 176-178.

<歴史>

山川浩實 (1997. 2) 徳島県の博物館史. 國學院大學博物館学紀要, 21: 122-134.

徳島県教育委員会 (執筆: 尾崎清治*・下川清*・反田卓*・長谷川賢二・秦忠義*・三好昭一郎*・吉原明則*・結城孝典) (1996. 3) 徳島県同和地区民俗文化史調査報告書3, 55pp.

<民俗>

庄武憲子・東田墨美* (1997. 3) 漁・猟にまつわる言い伝え. 阿波学会・徳島県立図書館編「総合学術調査報告, 日和佐町」(阿波学会紀要43号), 徳島県立図書館: 307-311.

吉成直樹*・庄武憲子 (1997.11) カシウイモの文化史-儀礼食で考える黒潮文化の流れ-. 財団法人味の素の文化センター編「助成研究の報告7」: 33-38.

吉成直樹*・庄武憲子 (1997.12) 日本における熱帯農耕文化の展開に関する文化地理的考察. 高知大学学術研究報告, 46: 125-148.

庄武憲子 (1997. 8) カッパの話. 徳島新聞8月16日朝刊.

庄武憲子 (1997. 9) 私の一冊: 宮本常一著「忘れられた日本人」. 徳島新聞9月19日夕刊.

庄武憲子 (1998. 1) 阿波圏「三番叟廻し」. 徳島新聞1月31日朝刊.

庄武憲子 (1998. 3) 阿波圏「ひな祭りの匂い」. 徳島新聞 3月7日朝刊.

<美術工芸>

大橋俊雄 (1997. 4) 企画展「阿波の近世絵画—画壇をささえた御用絵師たち—」. 徳島新聞 4月18日朝刊.

大橋俊雄 (1997.4-5) 企画展「阿波の近世絵画—画壇をささえた御用絵師たち—」から：佐々木信之丞「涅槃図」, 徳島新聞 4月30日朝刊；渡辺広輝「松鷹図」, 同 5月1日朝刊；中山養福「鶴・旭に松図」, 同 5月2日朝刊；守住貫魚「初音図」, 同 5月3日朝刊；鈴木鳴門「林和靖図」, 同 5月5日朝刊.

(4) 学会・研究会等での発表 (*印は館外の研究者)

佐藤陽一・高橋弘明*・洲澤 譲* (1997.11) 勝浦川の魚類相. 平成9年度第3回水域生態環境研究会 (徳島).

佐藤陽一・高橋弘明*・洲澤 譲* (1998. 3) 徳島県勝浦川の魚類相. 第25回四国魚類研究会 (松山).

田辺 力 (1997. 5) ババヤステ属における交尾器の形態. 第20回日本土壌動物学会大会 (千葉).

田辺 力・片倉晴雄*・馬渡峻輔* (1997.10) ヤステ類の種複合体における形態解析. 第57回日本昆虫学会大会 (福岡).

田辺 力 (1998. 3) ババヤステ属における交尾器の形態. 第45回日本生態学会大会 (京都).

鎌田磨人・山邊栄一*・太田陽子*・岡部健士* (1997.5) 徳島県吉野川の州における木本の消長と流域の環境変化. 第41回日本生態学会中国・四国地区大会 (松山).

岡部健士*・鎌田磨人・小寺郁子* (1997. 5) 砂州上の植物群落立地環境の相似性. 第41回日本生態学会中国・四国地区大会 (松山).

鎌田磨人 (1997. 5) 河道内の木本群落の動態と流域環境. 土木学会四国支部平成9年度第3回四国支部技術研究発表会, フォーラム (松山).

Kamada, M., T. Okabe* and N. Nakagoshi* (1997.8) Techniques for drawing fine Scale vegetation maps: utilization of low-aerial photography using a captive balloon. 40th Annual Symposium of the International Association for Vegetation Science (Ceske Budejovice, Czech Republic).

鎌田磨人・岡部健士* (1998. 3) 吉野川河道内における樹木の分布の変化とそれに及ぼす流域の諸環境. 第45回日本生態学会大会 (京都).

郡 麻里*・鎌田磨人・岡部健士* (1998. 3) 吉野川中流の砂州におけるアキグミとアカメヤナギの空間分布と河状履歴. 第45回日本生態学会大会 (京都).

鎌田磨人 (1998. 3) 何か足りない日本の景観生態学—イントロダクション. 第45回日本生態学会大会 (京都).

魚島純一 (1998. 3) 博物館の実状と課題—徳島県立博物館を中心に—. 国立歴史民俗博物館共同研究研究会 (千葉).

長谷川賢二 (1997. 7) 修験と地域社会. 四国民俗学会年会 (高松).

長谷川賢二 (1997. 8) 中世における山伏と地域社会. 中世史研究会 (大阪).

長谷川賢二 (1997.11) 史料保存ネットワークの可能性. 第23回全国歴史資料保存利用機関連絡協議会大会 (高松).

長谷川賢二 (1998. 2) 新しい総合博物館展示の模索. 徳島地方史研究会例会 (徳島).

5. 研究会・学会等の開催

●植物談話会

開催日：平成9年4月～10年3月までの毎月1回開催 (土曜日の午後6時30分から)

会 場：博物館実習室

参加者：毎回約15名

●国立歴史民俗博物館共同研究「博物館資料の保存環境」第2回研究会

開催日：平成9年11月26～27日

会 場：博物館講座室

参加者：10名 (共同研究員)

Ⅲ 資料収集保存事業

資料の収集と保存は、博物館にとって最も基本的な機能である。徳島の自然や歴史・文化に関する資料は可能なかぎり網羅的に収集することはもちろん、それぞれの分野でのテーマに応じ、比較資料として四国や西日本の資料も収集していくことにしている。とくに自然の各分野については、日本の地史や生物相の形成に深い関係のある中国大陸や東南アジアをはじめ、海外まで目をむけた収集も必要になるだろう。

資料の収集は、購入・寄贈・採集・交換など、様々な方法で行っている。最近では、県民からの資料の寄贈も増えてきている。資料の購入には美術品等取得基金を当てている。

平成9年度は5名(人文2、自然3)の文化推進員・臨時補助員の補助を得て、資料の整理作業を進めた。

1. 購入資料

●動物

荒俣コレクション復刻シリーズ	5点
九州・南西諸島産カミキリムシ科標本	3,153点
日本産蝶類標本	1,661点
東南アジア産蝶類標本	1,106点
ヒレオトリバネアゲハ	2点
中南米のタテハチョウ	298点
小岩屋コレクション 大陸産蝶類標本	1,999点

●地学

徳島県産鉱物	3点
カリナンダイアモンド(複製)	2点
先カンブリア紀化石	2点
ヨーロッパ産中生代アンモナイト	6点
第一瀬戸内累層群貝類化石	152点
プロトケラトプス頭骨(複製)	2点

●考古

袈裟褌文銅鐸(舌付)復元品	1点
---------------	----

●歴史

讃岐国名勝図会	5点
金比羅参詣名所図会	6点
金比羅参詣海陸記	1点
淡路国名所図絵	5点
三代実録	30点

続日本後紀	10点
埃囊鈔	15点
塵添埃囊鈔	5点
延喜式	50点
続日本紀	20点
日本後紀	3点
兵庫北関入船納帳(複製)	1冊
阿波国板野郡大代村岡家文書	1,504点
蜂須賀家万字紋暖簾	1点
おかげまうての日記	1冊
松平阿波守書状	1幅
若殿様御縁組御一卷	1冊
万石以上並交代寄合衆覚帳	1冊
蜂須賀家万字紋陣笠	1点
徳川御三家紋刀筒	1点
隅立角紋矢筒	1点
和弓	3点
那賀郡横見村拝知帳	1冊
勝浦郡大原浦川成帳	1冊
高松藩行列絵巻	1巻

●民俗

藍染織品	36点
------	-----

●美術工芸

守住貫魚関係資料	40点
左卍紋簞	1点

2. 寄贈資料

●動物(脊椎動物)

伊予灘産魚類液浸標本	多数	清水 孝昭氏
チチブおよびミミズハゼ	9点	近藤 洋右氏
アユモドキほか魚類液浸標本	13点	高橋 弘明氏
キセキレイ	1点	原 道一氏
バン	1点	東條 秀徳氏
ニホンザル頭骨	1点	国行利喜雄氏
ミソゴイほか	多数	曾良 寛武氏
テン・ヤマネほか	5点	武内 恵行氏
リス・ネズミ類	11点	市原 眞一氏
ハクセキレイ	1点	原 道一氏
ムクドリ	1点	吉成 宏征氏

ハクビシン	1点	遠藤 憲佑氏	●地学	材化石	1点	福澤 久氏
タウナギ	1点	萬木 竜一郎氏	中国産魚化石ほか	2点	三村 純也氏	
ミソゴイほか	2点	吉田 和人氏	羽ノ浦町産アンモナイト化石	1点	宮城 仙介氏	
タウナギ	2点	田幡 恭子氏	ムラヤマホタテ	2点	佐藤 隆氏	
トキ剥製ほか	多数	谷崎 正雄氏	オオヘビガイ化石集合体	1点	久次米 英夫氏	
アカショウビンほか鳥類	多数	八巻 吉子氏	ブラジル産化石	2点	工藤 廣市氏	
コチドリ卵ほか	2点	河野 圭典氏	立江層産アンモナイト	2点	徳島県埋蔵文化財センター	
イタチ	1点	吉成 宏征氏	世界各地のヒスイ輝石	23点	民谷 晴亮氏	
穴吹川産ほか魚類液浸標本	多数	高橋 弘明氏	●考古			
アオウミガメ	1点	椿泊漁協	タコ壺	4点	竹林 六郎氏	
鳴門市スクノ海産魚類	1点	河野 圭典氏	大峰山上先達造立板碑	1点	三間 勝美氏	
ワニ・タイマイ剥製	2点	曾根 弘子氏	●歴史			
ウナギ	1点	矢部 隆氏	忌部神社天日鷲命図像	1点	村田 禎章氏	
ムササビ	1点	小林 理香氏	年中誌心覚他	5点	里見 信生氏	
ヒクイナおよびクロジの巣	2点	八巻 吉子氏	岐蘇路安見図	1点	竹林 六郎氏	
クロサバフグ	1点	久米 明德氏	大日本士鑑	1点	竹林 六郎氏	
青森県産ニゴイ液浸標本	3点	洲澤 譲氏	関東大震災写真帳	1点	大阪 敏章氏	
ヤマドリ	1点	森本 價氏	水筒他	3点	住友 正示氏	
九州産ほか魚類液浸標本	多数	高橋 弘明氏	藍生産文書他	6点	住友 正示氏	
キツネ	1点	笠井 法真氏	旧日本陸軍兵士認識票	1点	日下 喜一氏	
ニホンカモシカ分離骨格	1点	徳島県文化財課	釘 (18世紀)	7点	日下 喜一氏	
クロトガリザメほか	3点	横川 浩治氏	旧日本陸軍兵士軍隊手帖	1点	日下 喜一氏	
ナベヅル	1点	吉田 和人氏	千人針	1点	日下 喜一氏	
愛媛県来村川産魚類液浸標本	多数	水野 晃秀氏	旧日本陸軍兵士用糸巻き	1点	日下 喜一氏	
ヤリガレイ稚魚	1点	横瀬 一夫氏	旧日本陸軍第43聯隊兵士傷票	1点	日下 喜一氏	
ニホンジカ下顎	1点	長尾 碩修氏	中華民国第4路軍兵士傷票	1点	日下 喜一氏	
アラスカ産キツネ剥製	1点	松浦シゲ子氏	旧日本陸軍先陣訓	1点	日下 喜一氏	
キツネ	2点	南後善二郎氏	旧日本陸軍戦車用砲弾	1点	日下 喜一氏	
トラツグミ	1点	西村 健司氏	徳島大空襲遺物	1点	日下 喜一氏	
ヒメトガリネズミ液浸標本	9点	吉田 正隆氏	高津宮内大丞書状	1点	日下 喜一氏	
クマタカ	1点	平島聡一郎氏	スキー用具 (戦前)	14点	三瀬 甫氏	
アカハラ	1点	原 道一氏	第二次上海事変戦地使用具	6点	三瀬 甫氏	
ヒドリガモほか	多数	曾良 寛武氏	徳島工業高等専門学校生帽子	1点	三瀬 甫氏	
●動物 (無脊椎動物)			大日本帝国政府軍用手票他	22点	吉見 悟氏	
ドブガイ	1点	四宮 義明氏	旧日本陸軍九九式歩兵銃	2点	徳島県警察本部	
カイエビ	2点	林 茂尚氏	小勝島第6特攻戦隊第22突撃隊写真	1点	本城 普氏	
クダヒゲガニ	1点	福島 治雄氏	徳島大空襲遺物他	2点	坂田カズエ氏	
●動物 (昆虫)			徳島大空襲遺物	40点	林 徳太郎氏	
徳島県産蝶類標本	576点	市橋 忠義氏	徳島大空襲遺物	21点	縄手 隆之氏	
徳島県産昆虫標本	206点	内田 清氏	日中戦争従軍資料	8点	田村 善昭氏	
スナゴミムシ類標本	197点	真野 俊作氏	棟札他	8点	松本 良平氏	
●植物			松前蝦夷風土記 下巻	1点	原田 宏氏	
植物さく葉標本	500点	田渕 武樹氏	シベリア抑留慰労状他	2点	市橋 俊文氏	
植物さく葉標本	400点	矢内 正弘氏	徳島大空襲遺物	5点	東宗院 平尾純行氏	
植物さく葉標本	300点	里見 信生氏				
植物さく葉標本	50点	片山 泰雄氏				
植物さく葉標本	50点	木下 覺氏				

- 民俗
 - 夷人形（初代天狗久作） 1点 泓 しげみ氏
 - 田臼・三徳鍬・唐鍬ほか 17点 住友 正示氏
- 美術工芸
 - 渡辺広輝筆山水図ほか 8点 里見 信生氏

3. 寄託資料

- 考古
 - 勢合出土袈裟襷文銅鐸 1点 西野 武明氏
 - ガラス製水注 1点 祖谷宝物館
 - 東山出土備前壺及び古銭 1,607点 藤枝 勝義氏
- 歴史
 - 犬神信仰関係資料 3点 緒方 俊仁氏
 - 麻植郡川田山棟付帳 9点 住友 正示氏
- 民俗
 - 人形（武智光秀）ほか 21点 徳島バス株式会社
 - 鬼人面 1点 田中 合氏
 - 毘沙門面ほか 6点 中山 嘉洸氏
- 美術工芸
 - 吉成葎亭筆 阿波盆踊図 1点 西野 武明氏
 - 渡辺広輝筆 光格上皇行幸儀仗図ほか 2点 楠 育治氏
 - 金光明最勝王経の経帙 1点 祖谷宝物館
 - 中山勝哲筆 猿猴図ほか 2点

4. 資料の貸し出し

- 動物
 - 漂着クジラ写真 4点
今原幸光氏（和歌山県立自然博物館）
 - タンガニーカ湖産ニシン科透明標本 1点
宮下雄博氏（東京水産大学）
 - ボラ科魚類液浸標本 20点
瀬能 宏氏（神奈川県立生命の星・地球博物館）
 - トウヨシノボリ液浸標本 7点
高橋弘明氏（西日本科学技術研究所）
 - ナシフグ及びコモフグ液浸標本 2点
横川浩治氏（香川県水産試験場）
 - ムリータアルマジロほか動物剥製 2点
茨城県自然博物館
- 植物
 - 南米産植物標本 32点 茨城県自然博物館
- 地学
 - エディアカラ動物群化石（レプリカ） 2点

- ラピス大歩危・石の博物館
- エクサエロトドン頭蓋骨化石 1点
茨城県自然博物館
- マンモスの牙・アンモナイト 2点
那賀川町科学センター
- アフール猿人足跡レプリカ 1点
松戸市立博物館

- 考古
 - 若杉山遺跡出土石臼 1点・石杵 1点
ラピス大歩危・石の博物館
 - 三角縁銘帯（張是作）六神四獣鏡（複製） 1点
徳島市教育委員会
- 歴史
 - 全国水平社創立大会綱領・宣言（複製）ほか 2点
福山市人権平和資料館
 - 徳島大空襲資料 81点 徳島県立徳島北高等学校
- 民俗
 - 四代目巳之助人形頭ほか 4点 恰美術館
 - 藍レプリカ写真 1点 新創社
 - 三番叟廻し テープ・ビデオテープ 4点
中内正子氏
 - 「阿波の木偶」ビデオテープ 1点
松竹京都映画株式会社
- 美術工芸
 - 御座廻御船十五艘御屋形廻外塗金具共仕様書ほか 4点 徳島市立徳島城博物館
 - 唐冠形兜ほか 2点 名古屋城美術展開催委員会

5. 特筆すべき資料の受入と整理

- 阿波国板野郡大代村岡家文書

阿波国板野郡大代村（現・鳴門市大津町大代）の庄屋・岡家旧蔵の文書を受け入れた。この資料は、江戸時代から明治時代初期にかけて、同村で酒造業を営み、さらに同村の村役人である庄屋役を務めた岡家の経済構造を示す資料で、計1,504点を数える。同家は酒造業よりも広大な田畠の小作経営で経済基盤を構築し、幕末には、徳島藩に500両を献金し、農民では最高位である苗字帯刀と土分格（郡付浪人）の待遇を与えられた豪農である。当館が収蔵する資料の中で、これだけまとまった近世文書は初めてである。資料の中には、田畠を調査した「検地帳」や農民の人口などを調査した「棟付帳」など、近世文書の中では史料的価値の高いものが多数含まれていることから、徳島藩における農民支配のあり方を研究するうえで基本的な資料である。

この資料は仮目録しか作られていないので、早期に本格的な整理と登録を行う予定である。

6. 館蔵資料数

平成10年3月末日現在の分野別収蔵資料数は下表のとおり。

7. 資料収集委員会

館長の諮問に応じて博物館における購入資料について審査する機関として、博物館資料収集委員会が設置されている。本委員会は、「美術品等取得基金による美術品等の取得要領」の規定に従って、200万円以上の購入資料について審査する。

委員は常任委員（5名以内、任期2年）と特別委員（3名以内）から構成されており、特別委員は購入資料に応じて特に必要がある場合に、その都度委嘱される。

9年度は、7月5日に第7回委員会を開催し、2件の人文資料の購入を諮問した。また、平成9年2月4日に第8回委員会を開催し、人文資料1件・自然史資料2件の購入を諮問した。

●博物館資料収集委員会委員（常任委員） （◎委員長、○副委員長）

氏名	役職（専門分野）
生野 勇	日本美術刀剣保存協会評議員 （美術工芸）
石井 愼義	徳島大学総合科学部助教授（生物）
石田 啓祐	徳島大学総合科学部助教授（地学）
○高橋 啓	鳴門教育大学学校教育学部教授 （歴史）
◎湯浅 良幸	徳島史学会会長（民俗）

8. 文献資料の収集

文献資料から得られる情報は、調査研究にはもちろんのこと、展示や普及教育などの博物館活動全般にわたるレベルアップをはかる上で不可欠である。当館では、人文・自然史分野の専門書や学会誌のほか、徳島県を中心とした地方史誌類や普及教育用図書も収集している。また、内外の博物館等の研究報告・年報・展示解説書等も交換により収集している。

●購入図書冊数（データベース登録数）

9,136冊（平成9年度分 296冊）

●購入雑誌

自然史系（30タイトル）：生物科学、科学、日経サイエンス、海洋と生物、月刊海洋、遺伝、プランタ、月刊むし、昆虫と自然、地学雑誌、月刊地球、インセクタリアム、SCIAS, American Journal of Botany, Cladistics, Entomology Abstracts, Episodes, Evolution, Geology, Journal of Evolutionary Biology, Journal of

●分野別収蔵資料数（平成10年3月31日現在）

分野	点数	内 訳			
		実物	レプリカ	模型・模写	文献
動物（脊椎）	16,316	16,250	55	5	6
（無脊椎）	25,506	25,448	0	58	0
（昆虫）	101,234	100,987	0	2	245
植物	177,350	177,008	56	5	281
地学	4,500	4,436	62	2	0
考古	862	726	72	5	59
歴史	7,176	6,506	23	4	643
民俗	3,955	3,945	5	5	0
美術工芸	4,979	4,975	0	4	0
合計	341,878	340,281	273	90	1,234

Paleontology, Nature, Oikos, Paleobiology, Plant Systematics and Evolution, Science, Systematic Botany, The American Naturalist, Trends in Ecology and Evol., Zoological Journal of Linnean Society

人文系 (34タイトル): 美術研究、美術史、佛教芸術、地方史研究、地理、芸術新潮、芸能史研究、月刊考古学ジャーナル、月刊文化財、月刊文化財発掘出土情報、季刊考古学、考古学と自然科学、古文化財の科学、古代文化、古代学研究、国華、古文書研究、考古学研究、考古学雑誌、九州考古学、民族学研究、日本の美術、日本民俗学、日本歴史、日本史研究、歴史学研究、歴史評論、歴史と地理、歴史地理学、史林、史学雑誌、信濃、Folklore, Journal of American Folklore

●当館刊行物の定期発送先 (平成10年3月末現在)

博物館ニュース		1,595ヶ所
博物館年報		432ヶ所
研究報告	国内	479ヶ所
	国外	210ヶ所
展示解説		206ヶ所
企画展図録	自然	88ヶ所
	人文	184ヶ所

9. 資料データベースシステム

平成6年度末から現在のシステムでの運用が行われている。9年度は、システム改善として、バックアップの高速化、安定化を図るためのバックアップ専用外部ハードディスクおよび使用頻度の高いスキャナーの購入、ソフトのバージョンアップなどが行われた。

(1) システムの構成

●博物館のハード構成

- ・部門サーバ1台: Apple Power Macintosh 8100/80 (内蔵ハードディスク2G、48M RAM) および QuaDrive (230MO ドライブ+1Gハードディスク)
- ・業務用端末 6台: Apple Power Macintosh 7100/70 (内蔵ハードディスク500M、32M RAM)——そのうち、3台には QuaDrive (230MO ドライブ+1Gハードディスク) が付属。
- ・業務用移動端末 2台: Apple Power Book 540C (内蔵ハードディスク320M、16M RAM)
- ・周辺装置
 - スキャナー1台: EPSON 9000 ART (透過原稿ユニット付き)
 - PolaScan (フィルムスキャナー) 1台
 - デジタルカメラ 1台 など

端末機は全て Ethernet 上につながり、LAN の配線は各研究室(研究室内は各学芸員の机まで)・作業室・収蔵庫まで行われている。収蔵庫内の作業には Power Book 540C を利用することとし、デスクトップ型は設置されていない。

●博物館独自のハード構成

現行システムでのハード構成は、基本的には前システムのマシン台数と同じという制限があり、博物館では部門サーバを人文・自然各1台で分けて管理したいという希望がかなえられなかった。そのため、博物館では独自に備品として以下のものを追加し、博物館全体のシステムを構成している。

- ・ワークグループサーバ 1台: Apple Workgroup Server 9150 (内蔵ハードディスク2G、48M RAM) および QuaDrive (230MO ドライブ+1Gハードディスク)
- ・Apple Power Macintosh 9600/300 1台 (内蔵ハードディスク 4G+2G、192M RAM)
- ・20インチディスプレイ

本館では、これをデータサーバ機とすることにし、システム側から配分された部門サーバ機をアプリケーションサーバ機として使用している。

- ・Apple Power Macintosh 9500/132 1台 (内蔵ハードディスク 2G+2G、160M RAM)
- ・17インチディスプレイ

本機は、7年度に博物館独自のシステムに追加したもので、作業スペースに置いてデータ登録や画像関係の作業などに使用している。

●データベース用ソフト

図書館と博物館を除く3館は、業務用データベースの構築には 4th Dimension を用いることにしたが、博物館では運用の柔軟性を考え、自然史は FileMaker Pro. 3.0 を、人文は Panorama II を使い、各分野ごとに入出力フォーマットを決めている。

(2) 改善項目

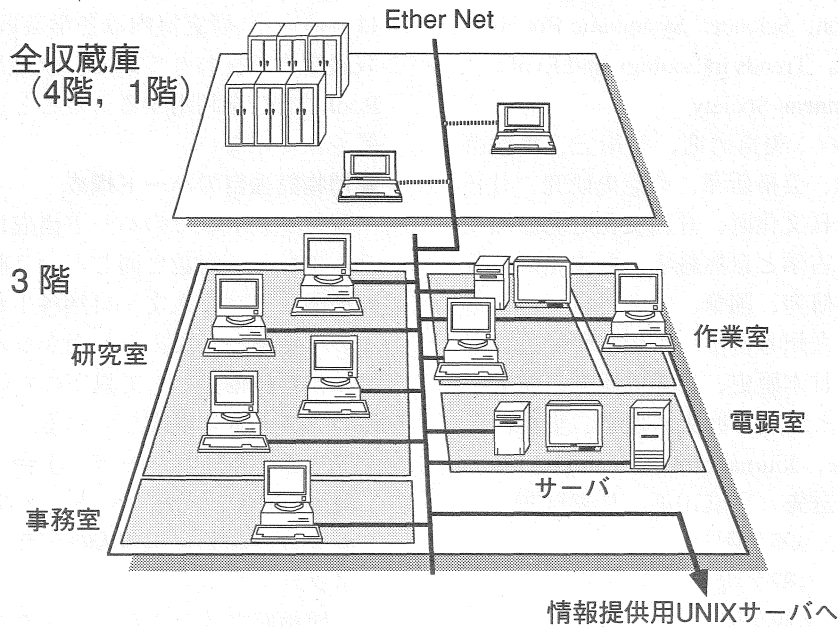
●新規に購入されたバックアップ機器

- ・日本システムハウス EXB-820SA-WE
- ・センチュリー外付ハードディスク 4GB

これらの機器は、コンピューター作業室に設置した。

●新規に購入されたスキャナー 一式

- ・Apple Power Macintosh G 3 MT266 (内蔵ハードディスク6GB、96M RAM) および17インチディスプレイ
- ・EPSON GT9500 ART



この一式は、作業スペースに設置した。

(3) 運用状況

●資料登録

博物館資料の登録は、各分野の担当学芸員がそれぞれの分野ごとの入力フォーマットを利用して行っている。入力されたデータは博物館データサーバに保存される。データは、システム管理者(21世紀館側)によって毎日深夜に一旦ハードディスクにコピーされ、つづいて8mmテープにバックアップされている。

●一般への資料情報の提供

情報提供用には、各館の部門サーバから統合サーバ(UNIXワークステーション)へテキストおよび画像を送り、システム管理者側で編集したものを提供するという仕様となっている。博物館資料管理データのうち、情報提供する項目のテキストデータおよび画像情報を統合サーバへ送るためのフォルダーに入れておけば、夜のうちに自動的に情報提供用の統合サーバにデータが転送される。

提供する情報は、博物館の資料データベースでは視覚的に興味を引きそうなものが少ないので、生物系では産地情報を地図(徳島県および四国のみ)上にプロットとして表示することを行っている。

10. 資料の燻蒸

収集した資料、貸し出し後返却された資料および借用した資料は、原則としてすべて、収蔵庫への搬入、

展示に先だって燻蒸を行う。

資料の形態や量などによって、次の3種類の燻蒸を行っている。

●減圧燻蒸装置による燻蒸

小型資料の燻蒸は、資料の受け入れのつど、担当学芸員が減圧燻蒸装置を使って行う。減圧燻蒸装置の有効内寸は、たて130cm×よこ120cm×奥行140cm(約2.3 m^3)で、燻蒸剤には臭化メチルと酸化エチレンの混合ガスを使用している。

平成9年度は18回の減圧燻蒸装置による燻蒸を行った。

●常圧燻蒸庫での燻蒸

減圧燻蒸装置に入れることができない大型の資料は、一時保管庫(24時間空調)に仮収蔵し、資料が適当な量になった時点で常圧燻蒸庫で燻蒸する。

常圧燻蒸庫は、床面積20 m^2 ×高さ3m(約60 m^3)である。常圧燻蒸庫での燻蒸は、文化財専門の燻蒸業者に委託し、燻蒸剤には臭化メチルと酸化エチレンの混合ガスを使用している。

平成9年度は、2回の常圧燻蒸庫での燻蒸を行った。

●収蔵庫の全室密閉燻蒸

収蔵庫への出入りなどにともなって、害虫やカビなど資料の保存に悪影響を与えるものが侵入することがある。そのために、原則として3年に1回、専門業者に委託して収蔵庫の全室密閉燻蒸を行うことにしている。平成8年度に実施したので、今回は11年度に実施する予定である。

Ⅳ 普及教育事業

普及教育事業、とくに普及行事は、「開かれた博物館」をめざし、館員が県民と直接対話できるよい機会であり、力点をおいて取り組んでいる。

平成9年度は、年間61回の普及行事を実施した。博物館の普及行事が県民のあいだに定着してきており、参加者も徳島市内とその近郊在住者から郡部へと広がりつつあるが、広報の方法等を検討し、郡部の参加者をもっと増やしたいと考えている。実施回数としてはこれ以上の増加はむずかしいと思われるので、今後は、参加者の反応を十分把握しつつ、内容の充実を図っていかねばならない。

1. 普及行事

■体験学習

昔の人の生活に関係のある体験を通じて、ものの性質や当時の人々の生活の知恵を学ぶシリーズ。

7月27日(日)	火おこし	参加者43人
10月5日(日)	土器づくり①(成形)	36人
11月9日(日)	土器づくり②(焼成)	33人
2月1日(日)	石器づくり	26人

■歴史散歩

県内の主な遺跡、建造物、町並みなどをめぐり見学するシリーズとして実施している。

5月18日(日)	古墳見学	47人
8月20日(水)	国府町の遺跡	34人
9月7日(日)	用水探検	19人
11月2日(日)	徳島城めぐり	28人
12月14日(日)	一宮城を歩こう	20人
2月22日(日)	脇町を歩こう	26人

■野外自然かんさつ

野外にでかけ、季節に応じた動植物の観察や地質見学を行っている。9年度は文化の森周辺のほかに、勝浦町、鳴門市、勝浦川河口、県南、土成町～上板町、愛媛県土居町などで実施した。

4月20日(日)	春の植物と昆虫	31人
4月27日(日)	磯のいきもの(4月編)	72人
5月11日(日)	磯のいきもの(5月編)	43人

5月25日(日)	立川谷の地質見学	26人
7月19日(土)	夜の雑木林	37人
8月2日(土)	水生昆虫のかんさつ	80人
9月13日(土)	鳴く虫のかんさつ	53人
9月21日(日)	鉱物さがし	19人
9月28日(日)	河口のいきもの	66人
10月26日(日)	秋の植物と昆虫	39人
11月16日(日)	県南の植物	47人
2月15日(日)	冬の植物と昆虫	23人
3月22日(日)	中央構造線に沿って歩く	48人

■土曜講座

毎月第2土曜日の午後2時から1時間ほど、学芸員が各自の研究テーマ周辺の話題について話をする講座で、申し込み不要・定員先着50名で実施している。

4月12日(土)	変わる縄文時代観	32人
5月10日(土)	地層を読む	43人
6月14日(土)	漂着物が語る世界	12人
7月12日(土)	幕末をかけぬけた男たち・新撰組	48人
8月9日(土)	生きもののくらし	17人
9月13日(土)	土器製塩のはなし	20人
10月11日(土)	ボタニカルアートの世界	16人
11月8日(土)	山岳霊場の旅	22人
12月13日(土)	仏画のはなし	48人
1月10日(土)	メダカのはなし	39人
2月14日(土)	瀬戸内海のおいたち	26人
3月14日(土)	年中行事のはなし	22人



野外自然かんさつ「磯のいきもの」

■室内実習

主に実習室で行う各種の観察・講習会。内容に応じて、実体顕微鏡、電子顕微鏡、蛍光X線分析装置、赤外線テレビカメラ等の機器も併用して観察を行っている。

「標本の名前を調べる会」は、毎年8月下旬に行う恒例の行事で、学芸員のほか10名の外部講師の応援を得て実施した。単に名前を教えるだけにならないよう、いっしょに調べる姿勢で取り組むように留意している。参加者は年々減少傾向にある。

6月8日(日)	生物絵画大会	7人
7月13日(日)	電子顕微鏡で化石を見よう	28人
7月20日(日)	植物標本のつくり方	29人
8月3日(日)	淡水魚調査法講座(魚の名前調べ)	7人
8月16日(土)	かんたん貝の標本のつくり方	25人
8月17日(日)	植物の名前の調べ方	11人
8月26日(火)	標本の名前を調べる会	37人
8月27日(水)	標本の名前を調べる会	74人
9月14日(日)	科学の目でみる文化財	7人
11月30日(日)	レプリカづくり①(型どり)	29人
12月7日(日)	レプリカづくり②(色つけ)	30人
1月18日(日)	落ち葉の中の生きものたち	27人
2月8日(日)	電子顕微鏡で化石を見よう	18人
3月15日(日)	古美術品を楽しむ	27人

■移動博物館(講座「阿波の歴史」)

9年度から始めた催しである。博物館まで遠くてなかなか足を運べない人のために、学芸員が出かけて行って、徳島の自然や歴史に関する話題や日ごろ研究していることについての話をする講座として実施した。

9年度は海南町教育委員会との共催で、4回の講座を海南文化館で開催した。

第1回：4月27日(日) 参加者38人

- ①阿波の近世絵画一画壇をささえた御用絵師たち
- ②銅鐸のまつり

第2回：5月25日(日) 参加者41人

- ①銅鐸をつくる
- ②聖地と旅一巡礼の歴史

第3回：6月22日(日) 参加者48人

- ①県南の年中行事
- ②百姓一揆と海部郡浅川の民衆

第4回：8月3日(日) 参加者43人

- ①漂着物が語る南の島からのメッセージ
- ②県南の古墳文化

■企画展関連行事

企画展開催中に、次の記念講演会、シンポジウム、

および展示解説を行った。展示解説は当館学芸員が講師となって実施した。

●企画展「阿波の近世絵画一画壇をささえた御用絵師たち」記念講演会 5月11日(日)

会場：21世紀館イベントホール

講師：松原 茂氏(東京国立博物館絵画室長)

演題：御用絵師と「お好み」

参加者：92人

●企画展「阿波の近世絵画一画壇をささえた御用絵師たち」展示解説

第1回：4月29日(火) 参加者55人

第2回：5月5日(月) 参加者35人

●企画展「吉野川の自然」シンポジウム 8月10日(日)

会場：21世紀館イベントホール

講師：水野信彦氏(愛媛大学名誉教授)

中村太士氏(北海道大学農学部助教授)

澤井健二氏(摂南大学工学部教授)

脇田健一氏(滋賀県立琵琶湖博物館主任学芸員)

テーマ：川と人の環境誌

参加者：119人

●企画展「吉野川の自然」展示解説

7月21日(月) 参加者40人

●企画展「ネアンデルタール人の復活」記念講演会

10月12日(日)

会場：21世紀館イベントホール

講師：馬場悠男氏(国立科学博物館人類研究部長)

演題：私たちはアフリカで生まれ、そしてアジアで育った。

参加者：96人

●企画展「ネアンデルタール人の復活」展示解説

10月19日(日) 参加者28人

■その他の普及行事

●子どもの日フェスティバル 5月5日(月)

子ども日に行う行事の初めての試みとして、博物館と博物館友の会の共催で実施した。小学生以下の子どもたちを対象に記念品を贈呈したり、館長と友の会会長による展示解説を行った。

参加者：約250人

2. 講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等

館外からの依頼を受けて行った講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等を、月日・担当者・内容（依頼者）の順に記す（内容に依頼者が表現されている場合は依頼者を省略）。これらも広義の普及教育活動につながるのと観点から、業務に支障のない限り依頼を受け入れることにしている。

- 5月10日 大橋俊雄 NHK テレビ「おはよう四国」出演（企画展「阿波の近世絵画」の紹介）
- 7月19日 長谷川賢二 NHK「毛利元就」テレビセミナーで講演「戦国時代の民俗誌」
- 7月20日 高島芳弘 「縄文土器を焼く会」講師（井川町ふるさと交流センター）
- 8月23日 長谷川賢二 NHK「毛利元就」テレビセミナー講演「絵解きの精神誌」
- 9月19日・10月6日 高島芳弘「土器づくり」講師（福島小学校）
- 10月12日 高島芳弘「土器でドキドキ『縄文焼き体験』」講師（丹生谷青少年健全育成センター・鷲敷警察署）
- 10月15日 亀井節夫 徳島市南井上小学校で3～6年生に講演「雲南の恐竜と徳島の恐竜」
- 11月29日 亀井節夫 京都文化博物館特別展「ヒトの来た道ー人類500万年と列島最古の居住者ー」記念講演会で講演「岩宿時代の動物たち」
- 1月25日 両角芳郎 日本博物館協会平成9年度博物館指導者研究協議会（理工・自然史部門）で講演「子どもにとってアトラクティブな展示とは」及び「自

然科学系博物館における教育普及活動の実際と今後のあり方」

- 2月24日 亀井節夫 鴨島町立森山小学校で講演「むかし森山にはゾウとシカがいた」
- 2月26日 長谷川賢二 徳島県教育委員会文化財課課内同和研修で講演「差別とケガレをめぐる諸問題」

3. 博物館実習生の受け入れ

博物館実習は、博物館法施行規則第1条で、学芸員となる資格を取得するために「大学において修得すべき博物館に関する科目」と規定されているもののひとつで、登録博物館または博物館相当施設における実習で修得することになっている。

当館では、原則として県出身の学生を受け入れることにし、大学の夏休み期間中に実習を行っている。4月1日～5月15日が受付期間で、希望者が多い場合は調整を行い、20数名をめどに承諾書を発行することになっている。

平成9年度は、8月25～29日に実習生の受け入れを行った。実習生は18人（男2人、女16人）で、大学別の内訳は次のとおりである。

四国大	8人	愛媛大	1人
徳島大	6人	京都精華大	1人
徳島文理大	2人		

カリキュラムは別表のとおりで、指導の都合上、少人数のグループに分割した時間帯もある。各学芸員と普及係職員が指導にあたり、資料の整理、調査などについての実習を行った。

●9年度博物館実習カリキュラム

月/日	午前 (9:30-12:00)		午後 (13:00-16:00)		(16:00-16:30)
8/25 (月)	開講 (副館長)	全員	博物館の普及行事について (木津)	全員	ノート記入 全員
	オリエンテーション (庄武)	全員			
8/26 (火)	考古資料の整理 (高島)	A	「標本の名前を調べる会」補助 (田辺)	A	ノート記入 全員
	民俗資料の整理 (庄武)	B	民俗資料の整理 (庄武)	B・C	
	「標本の名前を調べる会」補助 (田辺)	C	化石標本の整理 (両角)	D	
	化石標本の整理 (両角)	D			
8/27 (水)	考古資料の整理 (高島)	A	博物館と保存科学 (魚島)	A・C・D	ノート記入 全員
	民俗資料の整理 (庄武)	B・C	「標本の名前を調べる会」補助 (田辺)	B	
	「標本の名前を調べる会」補助 (田辺)	D			
8/28 (木)	民俗資料の整理 (庄武)	A・B	植物標本の作成 (小川)	A・B・C	ノート記入 全員
	標本整理の実際 (鎌田)	C・D	昆虫採集 (大原)	D	
8/29 (金)	考古資料の整理 (高島)	A	歴史資料の整理 (山川)	A	ノート記入 全員
	民俗資料の整理 (庄武)	B・C	古美術品の扱い方 (大橋)	B・C	
	歴史資料の整理 (長谷川)	D	地学資料の整理 (中尾)	D	

4. 博物館の広報活動

博物館ニュースをはじめ、催し物案内ポスター、企画展ポスター等を定期的に幅広く配布することにより、博物館活動をPRしている。月間行事案内については、県庁記者クラブを通じて広報するほか、報道機関やタウン紙編集室などへも直送している。また、必要に応じて報道機関への資料提供を行っている。

●博物館ニュース、ポスター等の主な県内定期発送先

小学校	260ヶ所
中学校	97
高等学校・その他学校	76
学会・同好会等	13
県および県教育委員会各課・機関	63
市町村教育委員会	50
公民館・隣保館	225
市町村および大学図書館	29
博物館施設	44
宿泊施設	32
報道関係機関等	39

●平成9年度資料提供

- 4月11日 企画展「阿波の近世絵画―画壇をささえた御用絵師たち―」の事前公開について
- 4月30日 「博物館子どもの日フェスティバル」の開催について
- 5月1日 記念講演会「御用絵師と『お好み』」の開催について
- 6月18日 企画展「吉野川の自然」の開催について
- 6月30日 部門展示室の展示替えについて
- 7月28日 博物館ロビーの展示について
- 8月20日 企画展「ネアンデルタール人の復活」の開催について
- 11月18日 部門展示室の展示替えについて
- 2月13日 部門展示室の展示替えについて
- 2月16日 博物館催し物案内の電子メールサービスについて

以上のほか、美術品等取得基金によって8月末・11月末・1月末・3月末に購入した資料の内容についての資料提供を行った。

5. 学校教育との連携

学習指導要領により学校教育の中で博物館の活用を図ることが明記されたにも関わらず、年々、学校からの利用が減少している。そのため、まず博物館利用の

方法を認識してもらうために、「博物館見学ノート」県内の各学校に配布したり、博物館の資料を授業で利用してもらったりした。企画展の前には学校へ直接出かけてPR活動を行った。

しかし、学校現場での博物館に対する認識不足は否定できない。そこで、博物館活動をもっと理解してもらい、博物館をより多く利用してもらう方法をさぐる資料とするため、県内の教員を対象にアンケート調査を実施した。

また、徳島県教育委員会等からの依頼により、教員対象の研修会を当館で実施し、当館職員が指導に当たった。その他、学校からの依頼により学芸員等が向いて講師をつとめた行事もある(27ページ「講師派遣」の項参照)。

●臨地研修会(徳島市教育研究所)

7月29日(火):常設展の展示解説および企画展の観覧 参加者20人

8月19日(火):常設展の展示解説および企画展の観覧 参加者20人

●平成9年度初任者研修講座(徳島県教育委員会)

8月22日(金) 参加者48人

講義:「博物館について」(亀井節夫)

「博物館の教育普及事業について」(木津正憲)
ディスカッション:

「博物館の効果的な利用について」

●徳島県高等学校教育研究会理科学会研修会

11月15日(土) 参加者12人

講義:「博物館活動全般について」(佐藤陽一)
常設展示室の自然科学分野の見学

●学校の授業での博物館利用(八万南小学校3年生)

2月7日(土) 参加者163人

講義:「むかしの道具しらべ」(庄武憲子)

●徳島県立博物館と学校教育との連携に関するアンケート調査(調査結果は31~35ページ参照)



八万南小学校児童の「むかしの道具しらべ」

調査期間：1月13日(火)～1月31日(土)
 調査対象：県内の小・中・高校(55校)の全教員
 アンケート配布数：1,956枚
 アンケート回収数：1,461枚(74.7%)

6. 博物館友の会

徳島県立博物館友の会は、博物館活動を通じて広く自然と文化に親しむとともに、会員相互の教養の向上と親睦を図ることを目的とする会である。博物館館内に事務局を置いている。

●会員(平成9年度末)

個人会員(年会費2,000円) 100人
 家族会員(年会費3,000円) 95組・395人

●役員(平成9年度)

会 長：寺戸恒夫
 副会長：亀井節夫(博物館長)・近藤康男
 幹 事：和田賢次・田淵武樹・石原 侑・吉村博子
 ・真貝宣光・徳山 豊・森本康滋
 監 査：柏野寿一・川下浩子

●事業

①博物館出版物の増刷・頒布

博物館発行の企画展図録及び解説書の増刷・頒布を行った。

②広報活動

9年度会員に対し、博物館ニュース、企画展チラシ、月間行事案内、年間催し物案内などを送付した。また、友の会会報「アワーミュージアム」No.4～6を発行し、会員に送付した。

③企画展説明会

企画展「阿波の近世絵画」、「吉野川の自然」及び「ネアンデルタール人の復活」の開催にともない、それぞれの期間中に会員を対象として説明会を行った。

④野外活動等

会員を対象とした行事を7回実施した。

○子どもの日フェスティバル(博物館と共催)

日 時：5月5日(月) 10時30分～15時
 場 所：博物館常設展示室
 参加者：約250人

○総会及び淡路島研修会(貸切バス利用)

日 時：6月1日(日) 9時～17時
 場 所：兵庫県洲本市～津名郡北淡町
 参加者：58人

○野生生物の飼育方法

日 時：7月21日(月) 14時～16時



友の会「淡路島研修会」の参加者

場 所：博物館実習室

参加者：9人

○昔の農具をさわってみよう

日 時：8月24日(日) 10時～12時

場 所：園瀬川河川敷

参加者：7人

○ラピス大歩危見学及び周辺の地質見学(貸切バス利用)

日 時：11月23日(日) 9時～17時

場 所：三好郡山城町～美馬郡美馬町

参加者：44人

○博物館友の会バザー

日 時：12月14日(日) 13時～15時

場 所：博物館実習室

参加者：44人

○博物館の裏側見学

日 時：1月11日(日) 14時～15時30分

場 所：博物館各室

参加者：11人

⑤友の会シンボルマークの作成

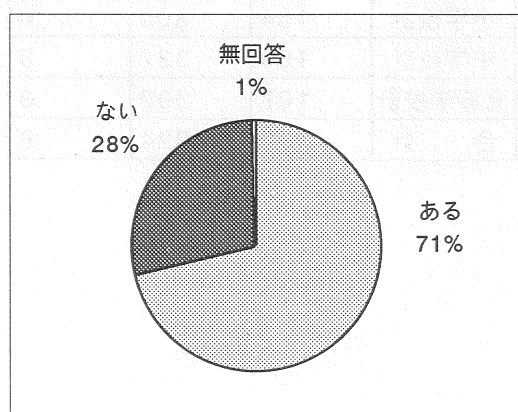
友の会の連帯意識を高めるため、シンボルマークを制定した。会員から募った案の中から選定し、下図のマークとなった。



「徳島県立博物館と学校教育との連携に関するアンケート」調査結果

Q1. 徳島県立博物館を利用（展示の見学・行事の参加・問い合わせ等）したことがありますか。

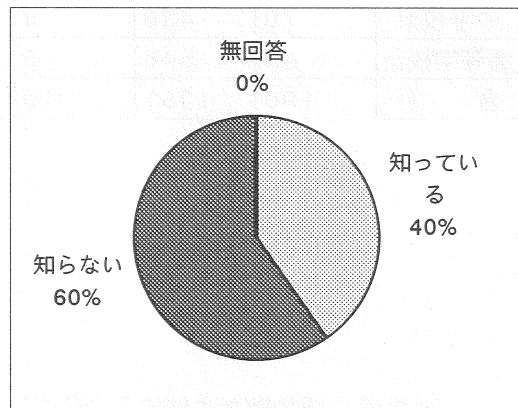
	ある	ない	無回答
小学校計	301	57	1
中学校計	348	160	2
高等学校計	388	199	5
合計	1037	416	8



Q2. 徳島県立博物館では、次のような出版物を出しています。それぞれについて知っていますか。

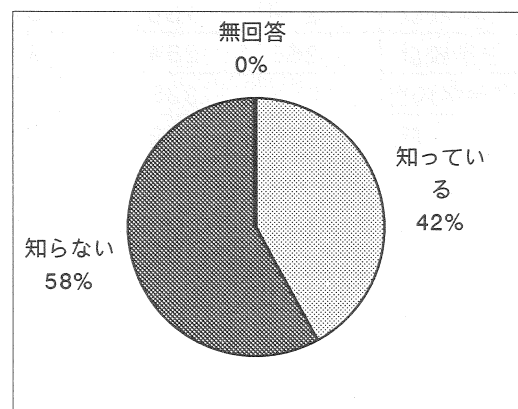
(1) 博物館ニュース

	知っている	知らない	無回答
小学校計	190	169	0
中学校計	203	304	3
高等学校計	197	392	3
合計	590	865	6



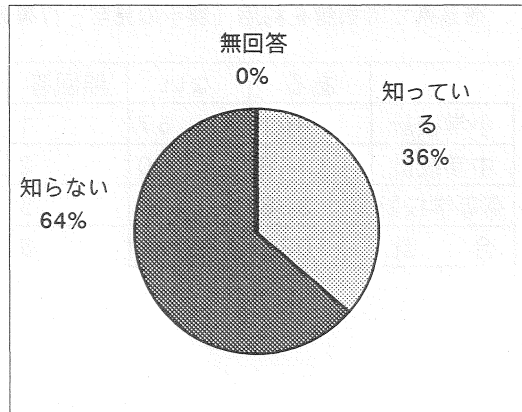
(2) 催し物案内（毎月1回発行）

	知っている	知らない	無回答
小学校計	180	178	1
中学校計	208	301	1
高等学校計	223	366	3
合計	611	845	5



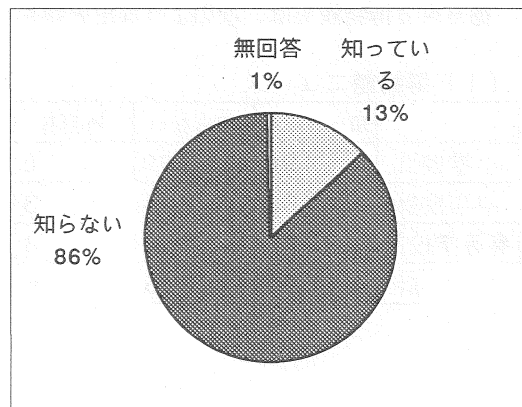
(3) 年間催し物案内

	知っている	知らない	無回答
小学校計	154	205	0
中学校計	180	327	3
高等学校計	197	392	3
合計	531	924	6



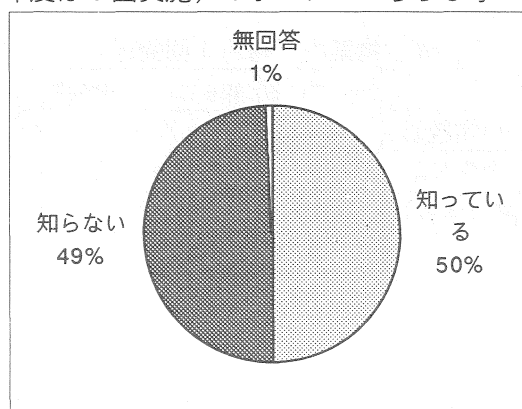
(4) 博物館見学ノート

	知っている	知らない	無回答
小学校計	80	279	0
中学校計	70	436	4
高等学校計	40	546	6
合計	190	1261	10



(5) 徳島県立博物館が主催する企画展（今年度は3回実施）のポスター・ちらし等

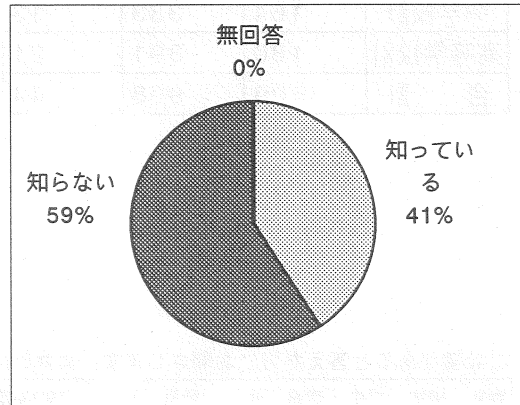
	知っている	知らない	無回答
小学校計	218	136	5
中学校計	253	254	3
高等学校計	255	333	4
合計	726	723	12



Q3. 徳島県立博物館では、次のそれぞれの場合、常設展の観覧料が無料になることを知っていますか。

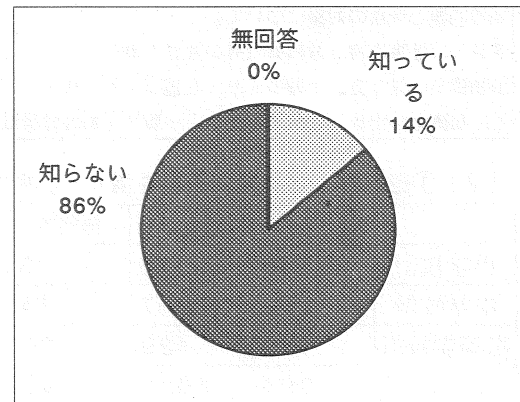
(1) 教育活動に基づく学習活動（遠足・クラブ活動等）として利用した生徒と教員の場合。

	知っている	知らない	無回答
小学校計	245	114	0
中学校計	197	311	2
高等学校計	153	436	3
合計	595	861	5



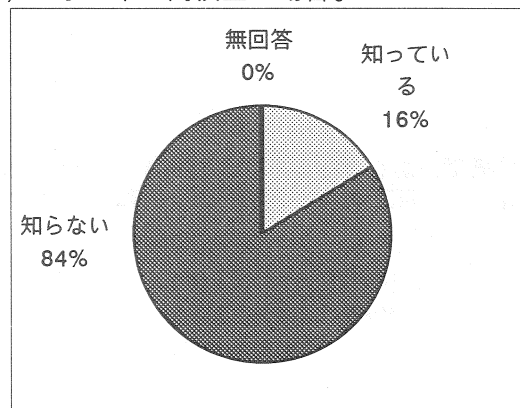
(2) 祝日の場合（すべての入館者）。

	知っている	知らない	無回答
小学校計	64	295	0
中学校計	62	447	1
高等学校計	76	514	2
合計	202	1256	3



(3) 第2・第4土曜日（長期休業中を除く）の小・中・高校生の場合。

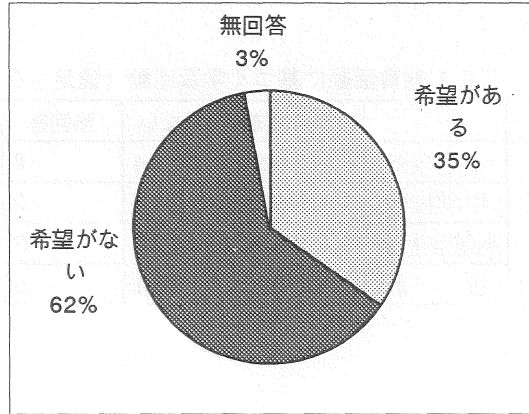
	知っている	知らない	無回答
小学校計	88	270	1
中学校計	100	408	2
高等学校計	48	541	3
合計	236	1219	6



Q4. 教育課程の中で徳島県立博物館を利用するとしたら、次のような方法が考えられます。それぞれについてお考えをお聞かせください。

(1) ①移動講座の実施《学芸員が、学校に出かけて行って講義（お話）や講座（実習等）をする。》

	希望がある	希望がない	無回答
小学校計	165	184	10
中学校計	164	333	13
高等学校計	180	391	21
合計	509	908	44

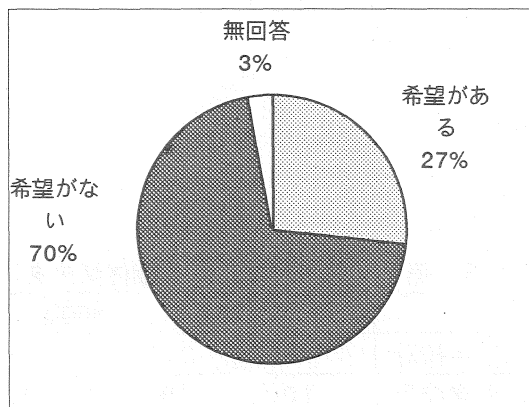


②希望があると答えた方にお聞きします。具体的にどんな講義（お話）や講座（実習等）を望みますか。

動物・植物・昆虫・恐竜・化石・地層・鉱物・中央構造線・水生昆虫・人類誕生・地球の歴史・天文等について。
 郷土の歴史・昔の生活や道具・銅鐸・古墳・縄文、弥生時代の遺跡等・阿波の伝統工芸・発掘調査
 徳島県内の遺跡・文化財等。古文書の読み方や利用の仕方・戦争体験
 環境問題と今後の対策について。
 学芸員の仕事内容。教科書以外の生きた教材。
 植物標本の作り方。土器づくり・石器づくり・火おこし
 どんな講座が出来るのか知りたい。一覧表があれば選ばせてもらいたい。

(2) ①徳島県立博物館の資料を借りて、授業等に使用する。

	希望がある	希望がない	無回答
小学校計	135	215	9
中学校計	129	367	14
高等学校計	130	439	23
合計	394	1021	46

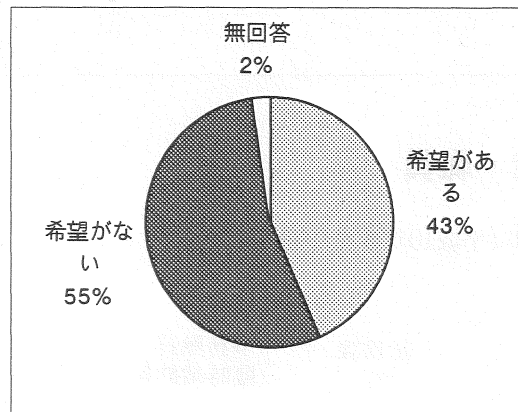


②希望があると答えた方にお聞きします。具体的にどんな資料を貸し出してほしいですか。

縄文・弥生時代の埋蔵物。銅鐸。化石。標本（植物・昆虫・鉱物）。昔の道具。阿波の伝統工芸品。
 ビデオ（館内で放映している物）。図書。パネル。
 恐竜の資料。環境問題についての資料。
 徳島の自然・歴史に関する物。徳島県内にある重要文化財に関する資料。戦争についての資料。
 同和問題に関する資料。教科書に関連のある物。
 古代の遺跡に関する資料。
 どんな資料があるのかわからない。貸出できる資料（学校にない物）のリストがほしい。

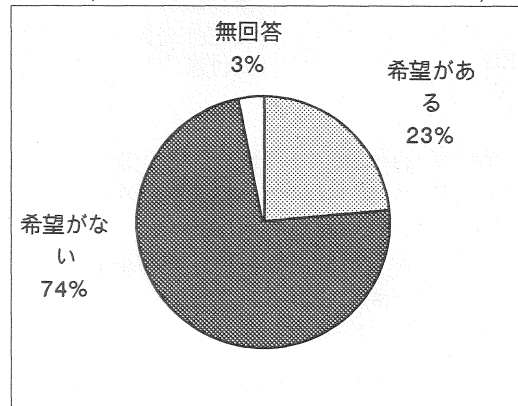
(3) 徳島県立博物館の裏側見学の実施《日頃見られない研究室や収蔵庫や保管庫等の見学》

	希望がある	希望がない	無回答
小学校計	157	194	8
中学校計	209	289	12
高等学校計	268	308	16
合計	634	791	36



(4) ①徳島県立博物館の施設を利用して授業等に使用する。(学芸員に解説等の手伝いをしてもらおう)

	希望がある	希望がない	無回答
小学校計	122	223	14
中学校計	94	402	14
高等学校計	123	448	21
合計	339	1073	49



②希望があると答えた方にお聞きします。具体的にどんな時に利用したいですか。

遠足等で利用するだけで精一杯である。利用したい気持ちはあるのだが実際問題として無理である。
 どんな施設があるのか、どんなことが可能なのかわからない。総合学習が始まったら利用したい。
 長期休業日を利用して、課題を持ち、生徒独自で行かせるようにするしかないのでは。
 見学後の話し合いやその場でまとめができるよう部屋をかりたい。
 企画展での展示解説をお願いしたい。
 石器づくり・火おこし・レプリカづくり等。授業に関連がある展示があるとき。
 昔の道具等を体験したい。

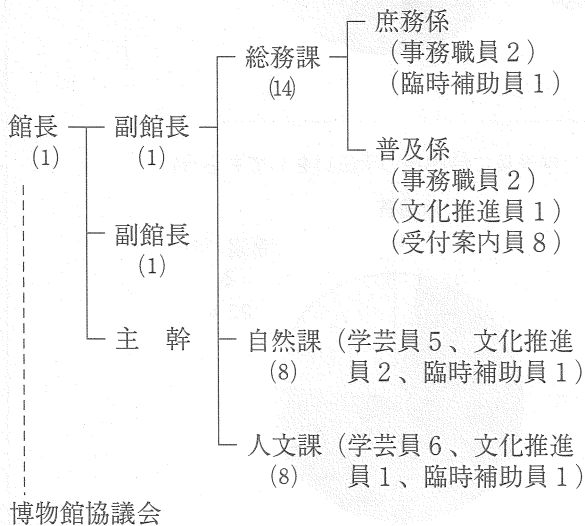
(5) 上記の(1)~(4)以外で徳島県立博物館に対して、期待することや改善してほしいことがあれば、何でもお聞かせください。

PRの方法を考えてほしい。年間催し物案内・講座案内を各家庭・教員全員に配布してほしい。
 遠足時の展示解説の希望。今後も続けてほしい。展示の方法や表示をわかりやすくしてほしい。
 教職員に対しての講習会・研修会等も考えてほしい。(毎年定期的実施してはどうか)
 場所・駐車場・交通の便等の問題がある。教師自身ももっと博物館のことを理解する必要がある。
 触れたり体験できる物を増やしてほしい。展示更新を希望。定期的に展示替えを。
 企画展の充実。小・中学生でも興味をもてるような企画展の開催を。年末年始の開館を希望。
 座って自分の研究だけをする学芸員でなく、activeな学芸員であってほしい。
 学芸員の増員。移動展等の開催を期待します。常に無料であればいいと思います。
 展示資料や収蔵資料の一覧表が見られるとうれしい。大きな催し(全国的なもの)を見れるように。
 博物館資料を利用した授業についての研究会を実施してほしい。(活用例があればよい)

V 管 理 運 営

1. 組織・職員

(1) 組織図 (平成10年5月1日現在)



(2) 職員名簿 (平成10年5月1日現在)

館 長 亀井 節夫
副 館 長 日下 武久
副 館 長 両角 芳郎
主 幹 (総務課長兼務) 米益 麻夫

<総務課>

総務課長 (庶務係長兼務) 米益 麻夫
主 査 山口都志江
普及係長 木津 正憲
主 事 結城 孝典
文化推進員 須賀 尚子
臨時補助員 大島永美子
受付案内員 美鳥 恵子
〃 川中 恵
〃 浅川真理子
〃 藤原真理子
〃 大西 寿美
〃 辻内 恵子
〃 多智花紀子
〃 地福 京子

<自然課>

自然課長 大原 賢二 (動物)
主任学芸員 佐藤 陽一 (〃)
〃 小川 誠 (植物)
〃 田辺 力 (動物)
学芸員 中尾 賢一 (地学)
文化推進員 岩佐 春香
〃 小林 千恵
臨時補助員 濱田 康代

<人文課>

人文課長 山川 浩實 (歴史)
主任学芸員 高島 芳弘 (考古)
〃 大橋 俊雄 (美術工芸)
学芸員 魚島 純一 (考古・保存科学)
〃 長谷川賢二 (歴史)
〃 庄武 憲子 (民俗)
文化推進員 北條ゆうこ
臨時補助員 高本 順子

(3) 人事異動 (平成10年4月1日付、カッコ内は前職)

退職：鎌田 磨人 (主任学芸員)
3月31日付け退職、割愛で徳島大学工学部へ
昇格：大原 賢二・自然課長 (主任学芸員)
〃：大橋 俊雄・主任学芸員 (学芸員)

(4) 平成9年度非常勤・臨時職員

●館長 (非常勤特別職)

亀井 節夫 (平成4.4.1～)

●文化推進員 (非常勤特別職)

赤田 瑞江 (平成7.4.1～10.3.31)
岩佐 春香 (平成8.4.1～)
北條ゆうこ (平成8.4.1～)
須賀 尚子 (平成9.4.1～)

●臨時補助員

和泉 恵子 (平成9.4.1～10.3.31)
武市 和恵 (平成9.4.1～10.3.31)
坂東登紀子 (平成9.4.1～10.3.31)

●受付案内員 (非常勤特別職)

砂山 亜紀 (平成7.4.1～10.3.31)
富士谷美香 (平成7.10.1～9.7.18)
川中 由佳 (平成7.10.1～10.3.31)

●平成9年度博物館費（2月現計予算額）（単位：千円）

科目	予算額計	管理運営	展覧事業	調査研究	資料収集保存	普及教育
報酬	32,204	32,204				
賃金	6,330	6,330				
報償費	1,560		820	360	240	140
旅費	11,084	3,427	2,009	4,439	1,041	168
需用費	36,570	4,386	18,717	4,883	6,396	2,188
役務費	14,055	2,694	7,693	573	2,200	895
委託料	6,128		4,742		1,386	
借損	933	341	192	160		240
備品費	50,663	2,468	972	125	*47,098	
負担金	6,765	75	6,625	65		
計	166,292	51,925	41,770	10,605	58,361	3,631

注）*のうちには、資料購入費39,998千円を含む。

- 美鳥 恵子（平成7.10.1～ ）
- 福田 純子（平成8.10.1～9.4.30）
- 松村 裕美（平成9.4.1～10.3.31）
- 藤原真理子（平成9.4.1～ ）
- 浅川真理子（平成9.4.1～ ）
- 高岡 宏美（平成9.5.1～10.3.31）
- 川中 恵（平成9.7.26～ ）

●徳島県立博物館協議会委員名簿

（平成10年3月31日現在）

区分	氏名	役職等
学校教育	増田 泰広	県小学校教育研究会理科部会長 桑島小学校長
	篠原 輝雄	県中学校教育研究会社会科部会長 協町中学校長
	羽山 久男	県高等学校教育研究会地歴学会副会長 城北高等学校教頭
社会教育	福原 健生	徳島市立徳島城博物館長
	富士貴志夫 （会長）	徳島県生涯学習推進会議委員 鳴門教育大学教授
	栗林健二郎	日和佐うみがめ博物館長
学職経験者	中村 昌宏	徳島経済研究所常務理事
	寺戸 恒夫 （副会長）	徳島文理大学教授
	野田 良子	徳島県文化財保護審議会委員 四国大学教授
	高村千恵子	徳島新聞社文化部記者

2. 予算

2月現計予算額（2月補正後の予算額）を上表に示す。

3. 博物館協議会

徳島県立博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定に基づき設置されている。

9年度は協議会を2回開催した。

●9年度第1回博物館協議会

日時：平成9年8月5日（火） 11：00～15：00

会場：博物館講座室

議事：①平成8年度決算及び事業報告について

②平成9年度予算及び事業計画について

③展示更新事業について

④博物館利用者増対策について

⑤その他

●9年度第2回博物館協議会

日時：平成10年2月17日（火） 10：30～13：30

会場：博物館講座室

議事：①諮問事項について

②平成9年度事業の概要報告について

③その他

4. 四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部

四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部は、四国地区の博物館及び相当施設の連絡・協議組織で、現在86館（園）が加盟している。四国地区の会長（支部長）を担当する館が2年ずつ持ち回りで幹事館をつとめることになっており、平成8・9年度の2年間は愛媛県立美術館が幹事をつとめることになっている。

平成9年度の役員会及び総会は次のとおり松山で開催された。

日時：平成9年6月4日（木）～6日（金）

会場：にぎたつ会館

議事：①平成8年度事業報告並びに決算報告について

②役員改選について

③平成9年度予算及び事業計画について

④その他

5. 徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の振興をはかるため、徳島県博物館協議会が平成8年2月27日に設立された。加盟館は、8年度は31館であったが、9年度新たに11館が加盟し、全部で42館（平成10年3月末現在）になった。なお、当館に事務局が置かれている。

●役員（平成10年3月末現在）

会長	徳島県立博物館長	亀井 節夫
副会長	恰美術館理事長	恰 文雄
副会長	徳島市立動物園長	本田 武
理事	相生森林美術館長	仁木 正
理事	徳島市立徳島城博物館長	福原 健生
理事	徳島県立近代美術館長	大平 明宏
監事	日和佐うみがめ博物館長	栗林健二郎
監事	鳴門市ドイツ館長	奥田 良忠

●平成9年度事業

①加盟館園の組織・職員と展示概要、主な収蔵資料リストの作成

アンケート調査を行い、回収した資料を取りまとめて加盟館園に配布した。

②役員会の開催

○日時：5月14日（水）13：00～15：00

場所：徳島県立博物館応接室

議事：総会について

○日時：11月26日（水）14：30～16：00

場所：徳島県立博物館応接室

議事：徳島博物館マップについて

③総会の開催

日時：6月17日（火）13：30～16：00

場所：徳島県立博物館講座室

議事：8年度事業報告ならびに決算報告について
監査報告について

9年度役員について

9年度事業計画ならびに予算案について

徳島博物館マップについて

④研修会の開催

日時：3月12日（木）13：30～16：00

場所：徳島県立博物館講座室

内容：講演「博物館運営とボランティアの話」

講師：諸岡博熊氏（UCC コーヒー博物館長）

⑤徳島博物館マップの作成

県内の博物館施設を広く紹介するため、「徳島博物館マップ」を作成することになり、昨年度から、マップ作成推進委員と事務局を中心に準備作業を進めてきた。

今年度は、4回のマップ作成会議とアンケートを実施し、明石海峡大橋開通に合わせて3月完成に至った。研修会で各館に配布し、お互いにPRをしていくことを確認した。その後、事務局で旅行会社やホテル、観光案内所、県外事務所等に配布し、PRに努めた。

6. 各種委員・非常勤講師等の受諾

平成9年度に博物館職員が委嘱を受けた各種委員会委員、大学非常勤講師等は次のとおり。

亀井節夫（館長）

日本博物館協会評議員（平成9年6月～10年6月）

徳島県博物館協議会会長（平成8年2月～）

徳島県美郷村蛸の里基本構想委員会委員

（平成8年9月～10年3月）

財団法人大塚美術財団評議員（平成8年6月～10年3月）

滋賀県甲西町博物館建設審議会会長

（平成9年4月～10年3月）

滋賀県多賀町文化施設建設準備委員会委員

（平成9年4月～10年3月）

三重県センター博物館（仮称）資料評価委員

（平成9年4月～10年3月）

三重県センター博物館（仮称）建設相談員

(平成9年4月～10年3月)
三重県大型化石発掘調査団顧問
(平成8年9月～10年3月)
熊本県立博物館基本計画委員会委員
(平成8年4月～11年3月)
長野県野尻湖発掘調査団顧問(平成6年～)
長野県北御牧村ステゴドン発掘調査団顧問
(平成6年～)
国際第四紀学術連合(INQUA)アジア・太平洋層
序委員会委員(1966～)
MODERN GEOLOGY 編集委員(1985～)
大谷大学文学部非常勤講師(平成9年4月～10年3月)
日下武久
徳島市立徳島城博物館協議会委員
(平成9.4.1～10.3.31)
両角芳郎
徳島大学総合科学部非常勤講師
(平成9.4.1～10.3.31)
山川浩實
松茂町歴史民俗資料館協議会委員
(平成9.4.1～11.3.31)
大原賢二
徳島県版レッドデータブック掲載種選定作業委員会
昆虫類分科会委員(平成8年4月～10年度)
佐藤陽一
徳島県版レッドデータブック掲載種選定作業委員会
委員・淡水魚類分科会座長(平成8年4月～12年度)
徳島県土木部河川課「水辺の楽校プロジェクト」検
討会委員(平成9年度)
徳島県土木部建設管理室「公共工事環境配慮指針策
定ワーキンググループ」メンバー(平成9年度)
小川 誠
徳島県版レッドデータブック掲載種選定作業委員会
維管束植物分科会委員(平成8年4月～12年度)
田辺 力
徳島県版レッドデータブック掲載種選定作業委員会
委員・その他の無脊椎動物分科会座長
(平成8年4月～12年度)
長谷川賢二
徳島県同和問題啓発をすすめる会専門委員
(平成9.4.1～10.3.31)
徳島県同和地区民俗文化史調査委員
(平成9.5.1～10.3.31)
四国地区大学放送講座担当講師及び徳島大学大学開
放実践センター放送公開講座専門委員
(平成9.4.25～平成11.3.31)
日本山岳修験学会評議員(平成9.11.9～)

魚島純一

四国大学非常勤講師(平成9.4.1～9.10.10)
国立歴史民俗博物館共同研究員
(平成9.5.1～10.3.31)

7. 外務省長期青年招聘事業に伴う研 修生の受け入れ

平成9年度外務省長期青年招聘事業で招聘された研
修生を受け入れた。

この事業は、外務省がアジア地域の旧社会主義諸国
より将来を担う青年文化人を長期間(約9ヶ月間)我
が国へ招聘し、それぞれの関心に応じた文化的分野に
おける研修及び我が国事情の理解の基礎となる日本語
の習得、各種視察、青年との交流等を通じ幅広くわが
国事情を見聞させるというものである。

平成9年度は、モンゴル、ベトナム、ラオス、カン
ボジア、中国、ミャンマーの6ヶ国から計13名が招聘
された。被招聘者は、平成9年7月28日に来日し、約
3ヶ月間の日本語研修、視察等を行った後、それぞれ
の研修先での専門研修を受けた。当館では、外務省か
らの依頼を受け、博物館における保存科学、博物館の
管理及び企画に関する研修を希望したミャンマーから
の研修生1名を受け入れた。

研修生：ミ・ミ・テエ・ヌエ(MIE MIE THET NWE)

さん(ミャンマー連邦ヤンゴン国立博物館職員)

受入期間：平成9年10月20日～平成10年3月13日

当館の研修担当者：魚島純一(保存科学担当)

研修内容：ミ・ミさんは10月20日徳島に到着。主と
して県立博物館において博物館の管理及び企画と
資料の保存に関する研修を行った。また、その間、
県外博物館の視察(関東・関西方面各1回)、国
立民族学博物館での資料保存に関する実習(31日
間)も行った。3月13日徳島を離れた。

8. 雲南との交流

平成8年度に、中国雲南省政府から徳島県(県立博
物館)に雲南各地の岩石・鉱物標本の寄贈を受けたの
を機に、両者の交流の足がかりができた。

9年度には、雲南省博物館長の招待を受け、8月25
日～9月1日の間、亀井館長・日下副館長が雲南省博
物館をはじめ、雲南省地質研究所、大理白(ベ)族自
治州博物館、麗江東巴(ドンパ)文化博物館、元謀博
物館と猿人化石発掘地、緑豊恐竜博物館及び化石発掘

現場などを訪問し、関係者との交流を行った。また、昆明市博物館に保存されている鳥居龍蔵博士の雲南省での調査の足跡を訪ねた。

9. 視察等博物館関係来訪者

- 5.20 神奈川県立生命の星・地球博物館主任学芸員
奥野花代子氏
- 5.22 検事総長土肥孝治氏ほか7名
- 5.27 県政バス公聴事業参加者一行45名
- 5.30 地質調査所地質標本館長豊 遥秋氏
- 6.6 四国ブロック管財課長会議一行12名
- 6.25 国立科学博物館会計課白戸玲子氏ほか2名
- 6.27 香川県綾南町教育委員会一行38名
- 8.6 新潟県企画調整部企画課社会文化施設建設室
長谷川伸氏
- 8.22 中国・四国地区用度主管課長会議一行18名
- 8.26 京都精華大学人文学部教授橋本初子氏
- 9.11 埼玉県立文書館学芸員新井浩文氏ほか1名
- 10.2 駿河台大学手塚氏
- 10.23 県政バス公聴事業参加者一行21名
千葉県文教常任委員会一行14名
- 10.29 文化庁岡記念物課岡村道雄氏
- 11.6 消防庁震災対策指導室中川氏ほか3名
- 11.11 岸和田市立郷土資料館学芸員山中吾朗氏
- 11.12 山形大学農学部助教授岩鼻通明氏
- 11.26 熊本県企画開発部文化企画課課長・主幹
- 12.3 全科協「科学系博物館における標本資料データベースの標準化に関する調査研究委員会委員8名
- 1.23 天理大学附属天理参考館学芸員中谷哲二氏
- 1.27 アジア太平洋統計研究所第8回統計実務コース
実地研修一行26名(うち外国人研修生16人)
- 2.6 徳山市教育委員会一行10名
- 2.19 衆議院法制局法制企画調整部長横田猛雄氏ほか2名
- 2.25 日本福祉大学知多半島総合研究所研究員曲田
浩和氏ほか1名
- 3.4 國學院大学考古学資料館学芸員青木豊、博物
館実習生一行43名
- 3.5 姫路市立広嶺中学校富士本健氏
- 3.20 海南町立博物館学芸員軍司早直氏ほか1名
- 3.24 東京国立博物館学芸部加藤寛、ドイツバイエ
ルン州文化財保護局ミファエル・キューレン
タイル博士ほか2名

Ⅵ 観覧者統計

平成9年度常設展及び企画展観覧者数、年度別累計は別表のとおり。

●平成9年度常設展観覧者数

(単位：人)

月	開館 日数	有 料 観 覧 者										無 料 観 覧 者										観覧者 総 数			
		個 人			団体 (割引20%)			減免(割引50%)			有 料 観覧者 計	学 校 教 育					第2・ 4土 無料 入館	その他	無料観 覧者 計						
		一 般	高校・ 大学生	小・中 学 生	一 般	高校・ 大学生	小・中 学 生	一 般	高校・ 大学生	小・中 学 生		幼・保育 園	人数	小学校 校	人数	中学校 校				人数	高 校 校		人数	計	人数
4	26	1,054	81	510	46	44	0	158	0	0	1,893	0	0	4	467	2	251	1	421	7	1,139	92	1,168	2,399	4,292
5	27	800	50	209	234	0	0	149	0	0	1,442	7	391	25	2,090	13	1,912	2	36	47	4,429	82	3,029	7,540	8,982
6	25	1,013	39	270	97	0	0	159	0	0	1,578	1	110	3	237	0	0	2	166	6	513	41	417	971	2,549
7	27	1,001	65	380	65	0	10	128	17	0	1,666	0	0	2	30	0	0	1	108	3	138	79	1,154	1,371	3,037
8	27	2,096	229	1,251	106	0	25	194	0	0	3,901	2	165	1	35	0	0	0	0	3	200	0	1,010	1,210	5,111
9	25	809	72	205	45	27	18	97	0	1	1,274	0	0	3	339	0	0	0	0	3	339	115	1,572	2,026	3,300
10	27	820	36	172	47	37	0	342	0	0	1,454	5	264	27	1,722	5	543	1	15	38	2,544	111	912	3,567	5,021
11	26	730	35	137	39	0	0	205	0	0	1,146	3	36	13	912	1	288	0	0	17	1,236	89	2,025	3,350	4,496
12	23	402	34	110	0	0	0	57	0	0	603	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	379	395	998
1	23	670	46	170	25	0	0	97	0	0	1,008	1	185	0	0	0	0	0	1	185	63	800	1,048	2,056	
2	24	771	43	196	0	0	0	93	0	1	1,104	0	0	2	227	0	0	0	2	227	98	927	1,252	2,356	
3	26	949	61	347	2	41	0	103	0	1	1,504	5	110	0	0	0	0	0	5	110	43	865	1,018	2,522	
計	306	11,115	791	3,957	706	149	53	1,782	17	3	18,573	24	1,261	80	6,059	21	2,994	7	746	132	11,060	829	14,258	26,147	44,720

●常設展観覧者数累計 (平成2～9年度)

(単位：人)

年 度	開館 日数	有 料 観 覧 者										無 料 観 覧 者										観覧者 総 数			
		個 人			団体 (割引20%)			減免(割引50%)			有 料 観覧者 計	学 校 教 育					第2・ 4土 無料 入館	その他	無料観 覧者 計						
		一 般	高校・ 大学生	小・中 学 生	一 般	高校・ 大学生	小・中 学 生	一 般	高校・ 大学生	小・中 学 生		幼・保育 園	人数	小学校 校	人数	中学校 校				人数	高 校 校		人数	計	人数
2	118	49,512	4,218	16,163	6,686	76	1,603	10,359	57	48	88,722			55	4,877	6	640	12	1,972	73	7,489		1,066	8,555	97,277
3	301	55,578	4,749	20,287	6,876	271	1,421	10,028	19	53	99,282			202	26,165	44	6,960	21	2,443	267	35,568		2,267	37,835	137,117
4	299	33,150	3,318	12,505	3,285	194	420	4,928	48	13	57,861			114	10,781	23	3,709	14	3,305	151	17,795	1,401	2,076	21,272	79,133
5	300	28,762	2,413	10,974	2,629	251	364	3,545	2	3	48,943	5	293	118	12,204	22	2,939	6	832	151	16,268	1,398	2,871	20,537	69,480
6	299	20,640	1,712	8,149	1,807	159	330	2,549	5	18	35,369	38	2,547	90	7,980	22	3,246	9	730	159	14,503	1,195	1,080	16,778	52,147
7	300	19,950	1,353	7,556	867	220	217	2,882	3	0	33,048	27	1,542	99	8,641	20	3,311	4	253	150	13,747	2,085	7,493	23,325	56,373
8	305	13,294	922	5,326	891	44	96	1,843	3	15	22,434	30	1,788	81	8,114	18	2,780	7	776	136	13,458	1,390	19,839	34,687	57,121
9	306	11,115	791	3,957	706	149	53	1,782	17	3	18,573	24	1,261	80	6,059	21	2,994	7	746	132	11,060	829	14,258	26,147	44,720
計	2,228	232,001	19,476	84,917	23,747	1,364	4,504	37,916	154	153	404,232	124	7,431	839	84,821	176	26,579	80	11,057	1,219	129,888	8,298	50,950	189,136	593,368

42 観覧者統計

●平成9年度企画展観覧者数

(単位：人)

企画展名	開催期間	開催日数	有料観覧者									無料観覧者	観覧者総数	
			個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)					有料観覧者計
			一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生			
阿波の近世絵画	9.4.22 ~9.5.18	24	1,214	52	38	4	0	267	452	0	0	2,027	379	2,406
吉野川の自然	9.7.18 ~9.8.31	39	2,612	233	914	0	0	0	475	0	1	4,235	938	5,173
ネアンデルタール人の復活	9.9.20 ~9.10.26	32	2,196	187	573	43	13	553	388	4	0	3,957	664	4,621
計		95	6,022	472	1,525	47	13	820	1,315	4	1	10,219	1,981	12,200

●企画展観覧者数累計(平成3~9年度)

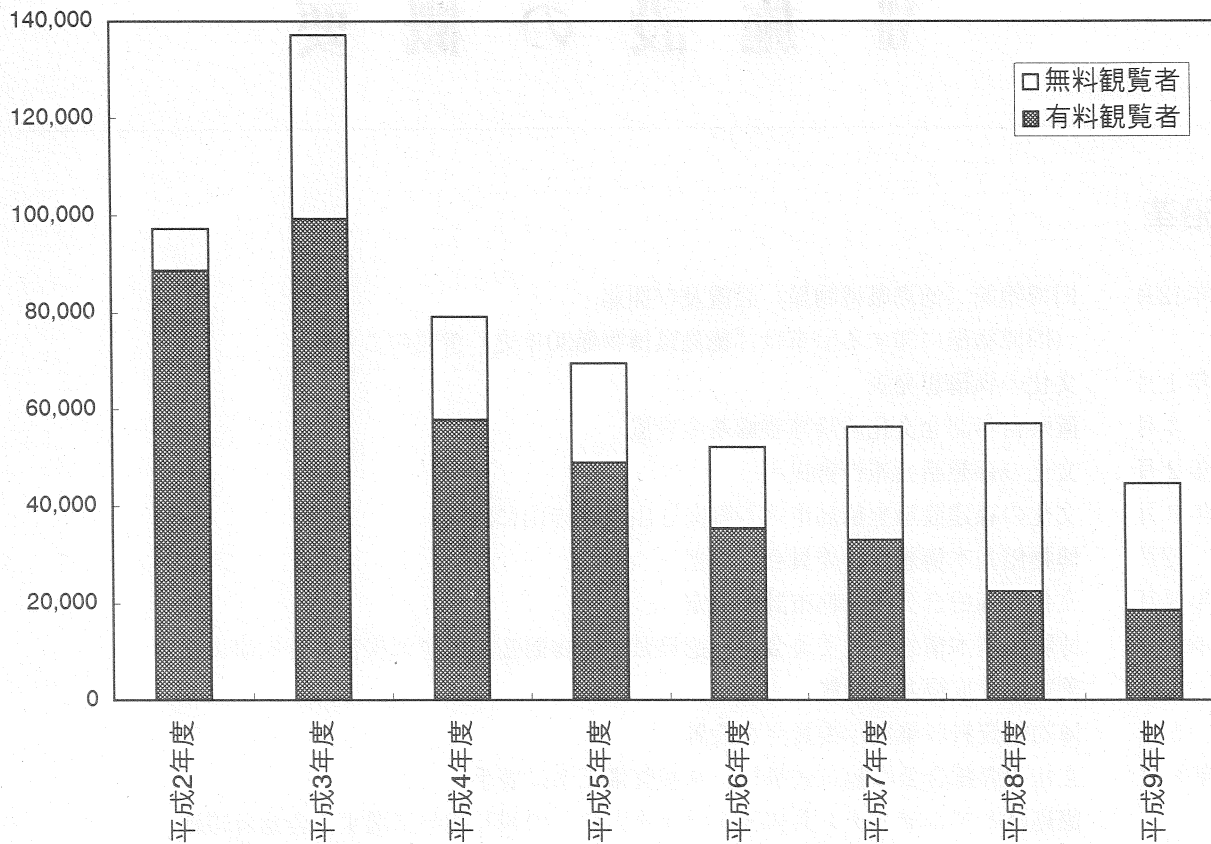
(単位：人)

年度	開館日数	有料観覧者									無料観覧者	観覧者総数	
		個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)					有料観覧者計
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生			
平成3年度	120	14,333	1,078	3,796	404	30	661	2,625	20	2	22,949	1,288	24,237
平成4年度	86	12,269	915	6,856	476	55	147	1,226	0	5	21,949	1,143	23,092
平成5年度	104	10,258	1,002	4,475	275	27	396	1,008	2	0	17,443	1,732	19,175
平成6年度	112	7,593	708	1,060	222	0	277	1,300	0	6	11,166	8,592	19,758
平成7年度	94	8,432	769	4,374	83	10	744	917	0	3	15,332	17,213	32,545
平成8年度	114	7,044	869	2,681	28	37	1,330	1,118	33	1	13,141	2,960	16,101
平成9年度	95	6,022	472	1,525	47	13	820	1,315	4	1	10,219	1,981	12,200
累計	725	65,951	5,813	24,767	1,535	172	4,375	9,509	59	18	112,199	34,909	147,108

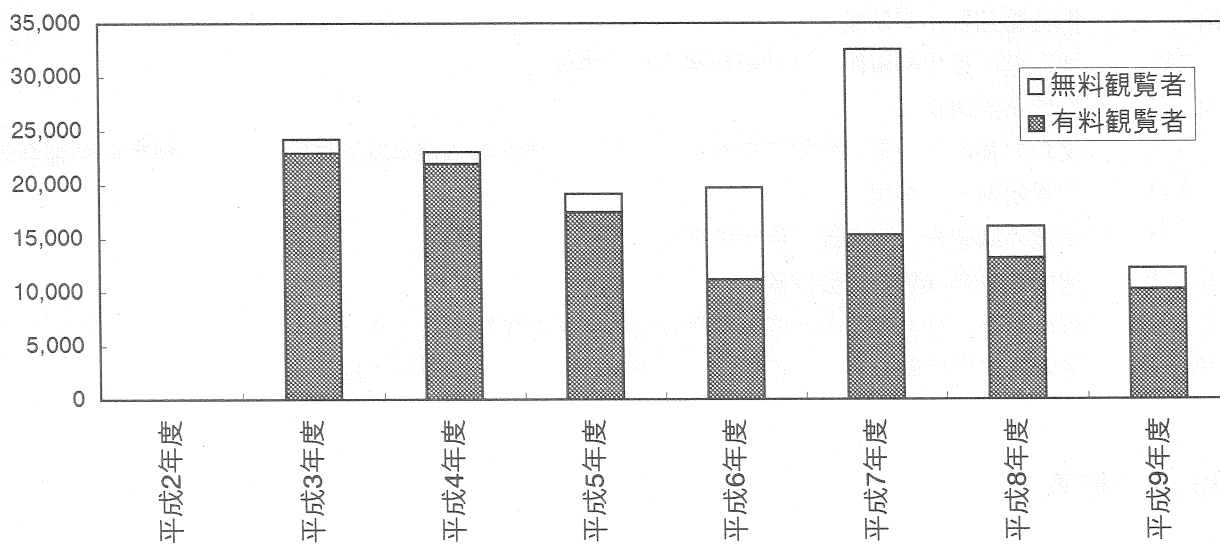
●特別陳列観覧者数累計(平成4~8年度)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
第1回館蔵品展	平5.2.16 ~3.21	29	6,712
掘ったでよ阿波	平6.2.1 ~2.27	23	4,090
掘ったでよ阿波	平7.1.13 ~2.5	21	3,165
第2回収蔵品展	平8.2.16 ~3.17	27	5,358
累計		100	19,325

●常設展観覧者数（平成2～9年度）



●企画展観覧者数（平成3～9年度）



Ⅶ 施設の概要

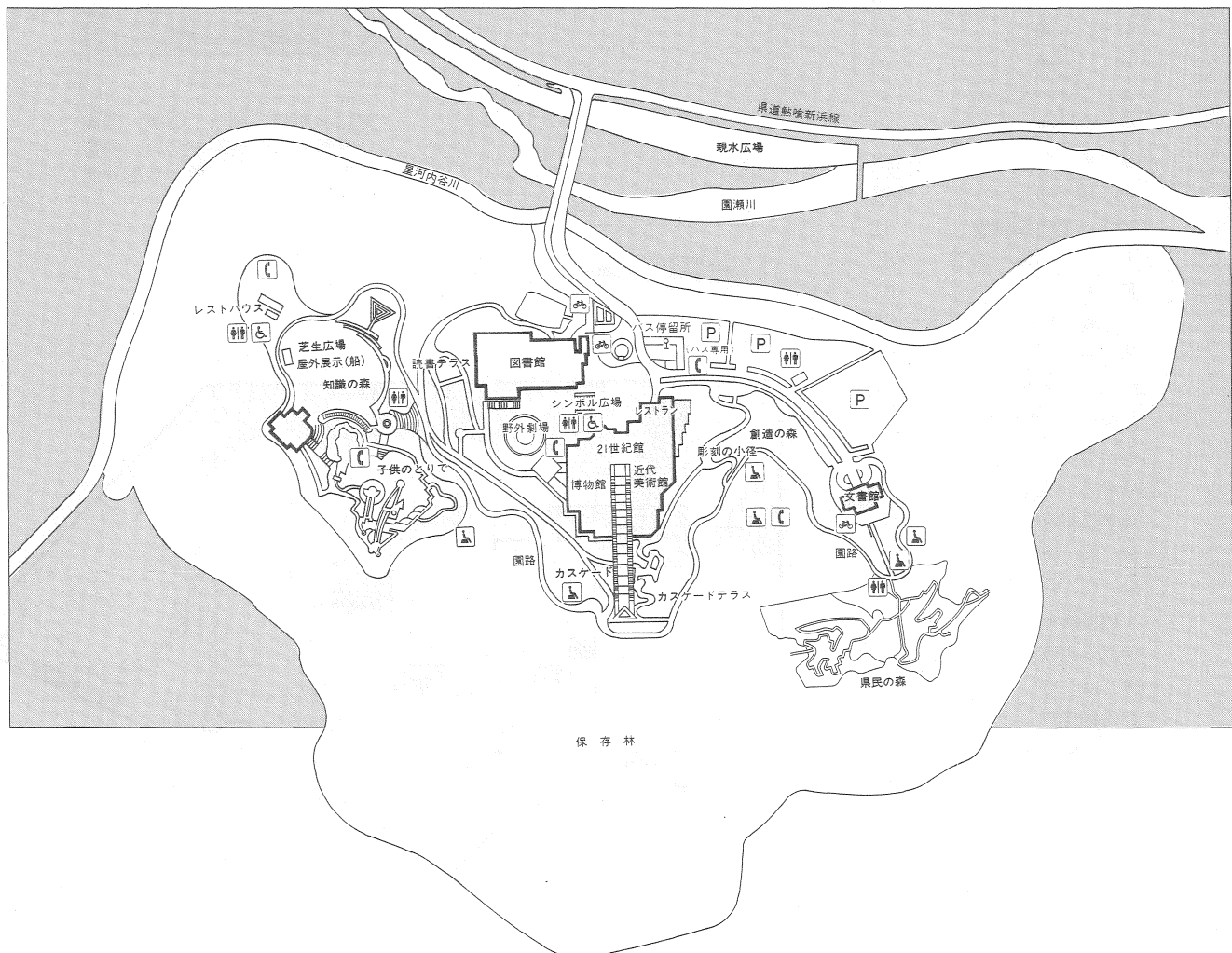
1. 沿革

昭和34年12月	旧博物館（徳島県博物館）設置及び開館 （旧博物館に関する沿革は「徳島県博物館30年史」参照のこと）
昭和55年1月	文化の森構想発表
4月	置県百年記念文化施設等整備基金設置
昭和56年2月	文化の森懇話会報告書提出
昭和57年3月	文化の森建設地を徳島市八万町向寺山及び寺山に決定
12月	博物館基本構想検討委員会を設置
昭和58年3月	文化の森総合公園を都市計画決定
昭和59年1月	博物館基本構想検討委員会が「徳島県立博物館基本構想報告書」を知事に提出
4月	美術品等取得基金設置
5月	博物館資料収集展示委員会を設置
昭和60年8月	文化の森総合公園起工式挙行、基盤整備工事に着手 徳島県とアルゼンチン共和国プラタ大学との相互贈与に関する合意書締結
昭和61年3月	文化の森の各文化施設基本設計（文書館を除く）及び博物館展示基本設計完了
昭和62年3月	各文化施設実施設計及び博物館展示実施設計完了
8月	各文化施設（文書館を除く）建設工事着手
昭和63年7月	博物館展示工事着手
平成元年4月	旧博物館展示室閉室
12月	博物館・近代美術館・21世紀館棟本体工事竣工
平成2年3月	旧博物館閉鎖
4月	文化の森総合公園文化施設条例施行により、博物館（徳島県立博物館）及び博物館協議会設置
10月	博物館展示工事竣工
11月	文化の森総合公園開園、博物館開館
平成3年2月	博物館資料収集委員会設置
平成4年3月	博物館が、日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く文教施設として指定される
平成8年4月	博物館管理規則の一部改正により、全祝日・休日の開館を実施

2. 施設の概要

- 所在地 徳島市八万町向寺山
- 敷地面積 40.6ha（文化の森総合公園全体）
- 建築面積 8,363㎡（3館棟）
- 延床面積 22,382㎡（3館合計－積層部分を含めると23,814㎡）
8,133㎡（博物館占用スペース）

- 構造規模 鉄筋鉄骨コンクリート造 地上4階・塔屋1階・地下1階
- 設計 (株)佐藤武夫設計事務所・(株)日建設計・(株)環境建築研究所 共同企業体
- 施行
 - 建築——大成建設・フジタ工業・不動建設・熊谷組・間組 共同企業体
 - 電気——四国電気工業・近畿電気工事 共同企業体
 - 空調——東洋熱工業・三機工業・ナミレイ 共同企業体
 - 管——朝日工業社・大成設備 共同企業体
 - エレベーター——(株)東芝
 - 家具——富士ファニチア(株)
 - 移動展示ケース——(株)三井
 - 展示——(株)丹青社



3. 博物館各室面積

1 階	
室名	面積㎡
企画展示室	325
同上準備室	46
地学収蔵庫	186
考古収蔵庫	361
一時保管庫	89
倉庫	135
冷凍室	19
石工室	41
保存処理室 1	70
その他共用部分※	771
小計	2,043

2 階	
室名	面積㎡
総合展示室	1,252
ラプラタ記念ホール	210
部門展示室(人文)	251
部門展示室(自然)	250
休憩室	21
休憩コーナー	39
展示ロビー	407
エレベーターホール	20
廊下	65
その他共用部分※	442
小計	2,957

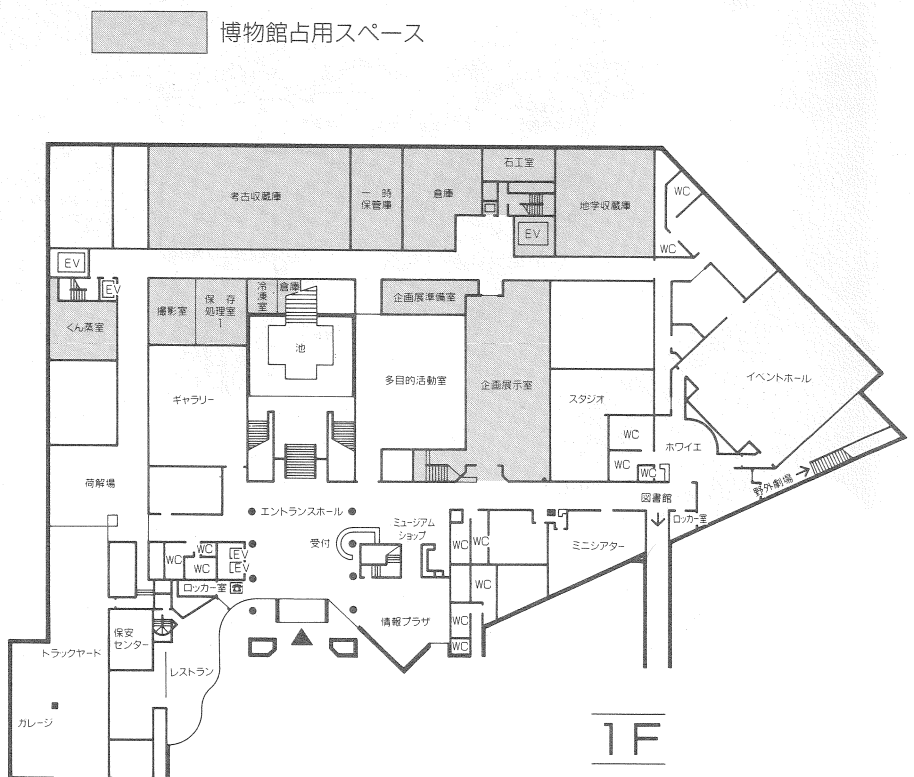
4 階	
室名	面積㎡
エレベーターホール	45
特別収蔵庫 1	37
特別収蔵庫 2	37
馴化室	35
歴史民俗収蔵庫	357
生物収蔵庫	380
その他共用部分※	151
小計	1,042

3 階	
室名	面積㎡
暗室	23
倉庫	21
倉庫	15
エレベーターホール	37
湯沸室	12
講座室	123
実習室	146
実習・講座準備室	34
レファレンスルーム	81
館長室	53
応接室	21
事務室	133
研究室(自然史)	106
生物標本作成室	28
飼育室	21
研究室(人文)	80
地学考古民俗作業室	64
分析室 1	64
分析室 2	48
X線撮影室	48
保存処理室 2	100
薬品庫	22
資料鑑定室	22
生物液浸収蔵庫	100
電子顕微鏡室	30
書庫	97
資料室	20
書類保管庫	35
その他共用部分※	468
小計	2,052

屋 1 階	
室名	面積㎡
その他共用部分※	39
小計	39

合 計	
8.133㎡	

※は荷解場、廊下、便所、空調機械室など共用部分の、美術館および21世紀館との案分面積。



VIII 例 規

●徳島県文化の森総合公園文化施設条例〔抜粋〕

制 定 平成2年3月26日 徳島県条例第11号
最近改正 平成9年3月28日 徳島県条例第34号

(設置)

第1条 個性豊かな県民文化を振興し、魅力のある地域づくりに寄与するため、県民の文化活動の拠点として、徳島県文化の森総合公園文化施設（以下「文化施設」という。）を徳島市八万町に設置する。

(名称及び業務)

第2条 文化施設の名称及び業務は、次のとおりとする。

名 称	業 務
徳島県立博物館 (以下「博物館」という。)	(1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。 (3) 博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。 (4) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

(徳島県立図書館、徳島県立近代美術館、徳島県立文書館、徳島県立21世紀館の業務は省略)

(利用の許可)

第3条 (省略)

(観覧料等)

第4条 博物館が展示する博物館資料又は美術館が展示する美術館資料を観覧する者に対しては、別表第1に掲げる額の観覧料を徴収する。

2 (省略)

3 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は使用料の全額又は一部を免除することができる。

4 観覧料及び使用料の徴収の時期及び方法その他観覧料及び使用料に関し必要な事項は、規則で定める。

(損害の賠償)

第5条 文化施設を利用する者は、文化施設の施設、資料等をき損し又は亡失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、当該き損又は亡失がやむを得ない理由によるものであると認めるときは、その賠償責任の全部又は一部を免除することができる。

(職員)

第6条 図書館法（昭和25年法律第118号）及び博物館法（昭和26年法律第285号）に定めるもののほか、文化施設に、館長その他必要な職員を置く。

(協議会)

第7条 教育委員会の附属機関として、次の表の上欄に掲げる協議会を置き、これらの協議会の所掌事務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

協 議 会 の 名 称	所 掌 事 務
徳 島 県 立 博 物 館 協 議 会	博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べること。

(4館の各協議会の所掌事務は省略)

- 2 協議会は、委員10人以内で組織する。
- 3 (省略)
- 4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 委員は、再任されることができる。
- 6 前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。
(教育委員会規則への委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、文化施設の管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

別表第1 (第4条関係)

区 分	単 位	金 額			
		常 設 展		企 画 展	
		個 人	団体 (20人以上をいう。以下同じ。)	個 人	団 体
小学校の児童及び中学校の生徒	1人1回	50円	40円	知事はその都度定める額	
高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者	1人1回	100円	80円		
その他の者(学齢に達しない者を除く。)	1人1回	200円	160円		

●徳島県立博物館管理規則

制定 平成2年3月31日 徳島県教育委員会規則第9号

改正 平成8年3月29日 徳島県教育委員会規則第7号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県立博物館(以下「博物館」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 月曜日 ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときは、その後においてその日に最も近い休日でない日
- (2) 12月28日から翌年の1月4日までの日

2 徳島県立博物館長(以下「館長」という。)は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、臨時に休館し、又は同項に規定する休館日に開館することができる。

(供用時間)

第3条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 館長は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定する供用時間を変更することができる。

(遵守事項)

第4条 博物館を利用する者は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例(平成2年徳島県条例第11号)及びこの規

則並びに館長が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。

(入館の禁止等)

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者
- (2) 前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者

(資料の特別利用)

第6条 学術その他の目的のために博物館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、館長の承認を受けなければならない。

(補則)

第7条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、館長が定める。

●徳島県立博物館協議会規則

制定 平成2年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）第7条第6項の規定に基づき、徳島県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長1人を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第3条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(雑則)

第4条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

●徳島県教育委員会行政組織規則 [抜粋]

制定 昭和45年3月31日 徳島県教育委員会規則第4号

最近改正 平成9年3月28日 徳島県教育委員会規則第1号

第1章 総則（省略）

第2章 事務局（省略）

第3章 教育機関 [博物館に該当する条項のみの抜粋]

第3節 徳島県立博物館

(名称及び位置)

第24条 徳島県文化の森総合公園文化施設条例により設置された徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の名称及び位置は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	位 置
徳 島 県 立 博 物 館	徳島市八万町向寺山

(内部組織等)

第25条 博物館に総務課、自然課及び人文課を置き、総務課に庶務係及び普及係を置く。

2 前項の課及び係の分担事務は、館長が定める。

(業務)

第26条 博物館の業務は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。
- (3) 博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。
- (4) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

第6節 職及び職務 [博物館に該当する条項のみの抜粋]

(所長等の職務)

第32条 教育センター、情報処理教育センター、少年自然の家及び埋文総合センターの所長、文書館、21世紀館及び中央武道館の館長並びに県民運動場の場長は、上司の命を受け当該教育機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

(次長等)

第33条 上司の命を受け、教育機関の長を補佐させるため、次の表の上欄に掲げる職を同表の相当下欄に掲げる教育機関に置く。

職	教 育 機 関
副 館 長	図書館、博物館、美術館、文書館、21世紀館

(教育センターその他の次長は省略)

2 教育機関の長に事故があるとき、又は教育機関の長が欠けたときは、当該機関に属する次長又は副館長が、その職務を代行する。

(主幹等)

第34条 前条に規定する職のほか、教育機関に、次の表の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の相当下欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
主 幹	上司の命を受け、当該教育機関の事務に関し特に命ぜられた事項を処理する。
課 長	上司の命を受け、課の事務を処理する。
主 査	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする事務又は技術に従事する。
専 門 学 芸 員	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする博物館又は美術館の専門的事務に従事する。
係 長	上司の命を受け、係の事務を処理する。
事 務 主 任	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする事務に従事する。
主 任 学 芸 員	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする博物館又は美術館の専門的事務に従事する。
主 事	上司の命を受け、事務に従事する。
学 芸 員	上司の命を受け、博物館又は美術館の専門的事務に従事する。

(司書、技師その他の博物館に置いていない職は省略)

第4章 附属機関

第37条 附属機関の名称、庶務を担当する課又は教育機関は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	位 置
徳島県立博物館協議会	博物館

(事務局の各審議会、他館の各協議会等は省略)

●徳島県立博物館観覧料減免要綱

制 定 平成2年11月3日

最近改正 平成8年4月1日

(趣旨)

第1条 この要綱は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例(平成2年徳島県条例第11号。以下「条例」という。)

第4条第3項の規定に基づき、徳島県立博物館の観覧料の減免について必要な事項を定めるものとする。

(観覧料の減免)

第2条 観覧料を減免することができるとき及びその減免の割合は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者並びにこれらの引率者が、教育課程に基づく学習活動として観覧するとき。常設展観覧料の全額
- (2) 身体障害者手帳の交付を受けている者及び第一種身体障害者(昭和57年1月6日付け社更第4号厚生省社会局長・児童家庭局長通知に定めるところによる。)の介護者(一名に限る。)、療育手帳の交付を受けている者及びその介護者(一名に限る。)並びに精神障害者保険福祉手帳の交付を受けている者及びその介護者(一名に限る。)が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の額に百分の五十を乗じて得た額
- (3) 年齢満65歳以上の者が観覧するとき。常設展及び企画展の観覧料の額に百分の五十を乗じて得た額
- (4) 学校週5日制の実施に伴い学校が休業日となる土曜日(毎月第2土曜日及び第4土曜日、祝日を除く。)に、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒及びこれらに準ずる者が観覧するとき。常設展観覧料の全額
- (5) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する祝日及び休日(1月1日を除く。)に観覧するとき。常設展観覧料の全額
- (6) その他徳島県立博物館長(以下「館長」という。)が特に必要と認めるとき。館長が必要を認める額

(観覧料の免除申請等)

第3条 前条第1号により観覧料の免除を受けようとする者は、あらかじめ徳島県立博物館観覧料免除申請書(様式第1号)を館長に提出し、承認を受けなければならない。

- 2 館長は、前項の申請を適当と認めたときは、徳島県立博物館観覧料免除承認書(様式第2号)により承認するものとする。
- 3 前条第2号又は第3号に該当する者は、身体障害者手帳、療育手帳並びに精神障害者保険福祉手帳又は年齢を証明する資料を提示し、承認を受けるものとする。

様式第1号及び第2号(省略)

●徳島県立博物館資料特別利用要綱

制 定 平成3年12月1日

(趣旨)

第1条 この要綱は、徳島県立博物館管理規則(平成2年徳島県教育委員会規則第9号)第6条の規定に基づき、

徳島県立博物館が所蔵する博物館資料（以下「資料」という。）の特別利用について必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第2条 資料の特別利用とは、学術その他の研究及び展示、又は出版物掲載等のため、資料を特別に閲覧、模写、複写、複製、撮影しようとする場合、あるいは資料の貸出を受けようとする場合をいう。

（手続）

第3条 資料の特別利用をしようとする者は、あらかじめ徳島県立博物館長（以下「館長」という。）に資料特別利用申請書（様式第1号）を提出し、資料特別利用許可書（様式第2号）の交付を受けなければならない。

2 資料の特別利用のうち、資料の館外貸出を受けようとする者は、貸出を受けようとする日の30日前までに、特別利用申請書を提出するものとする。

3 館長は、資料の館外貸出をする際、借受者から資料借用書（様式第3号）を提出させるものとする。

（許可基準等）

第4条 資料の特別利用ができる場合は、学術その他の研究及び教育又は文化に関する事業の用に供することを目的とするときに限るものとし、次の各号のいずれかに該当するときは許可しないものとする。

- (1) 特別利用によって、資料の保存に悪影響を及ぼす恐れがあるとき。
- (2) 特別利用によって、博物館の業務に支障をきたす恐れがあるとき。
- (3) 寄託資料の特別利用をしようとする場合で、寄託者の同意を得ていないとき。
- (4) その他、館長が不相当と認めるとき。

2 資料の館外貸出を受けることができる者は、次のとおりとする。ただし、貸出期間は原則として45日以内とする。

- (1) 国立の博物館、博物館法に定める博物館及び博物館に相当する施設
- (2) 社会教育法に定める公民館
- (3) 国立の図書館及び図書館法に定める図書館
- (4) 学校教育法に定める学校
- (5) その他、館長が適当と認める者

（条件）

第5条 資料の特別利用を許可された者は、特別利用に際し次の各号を遵守しなければならない。

- (1) 資料特別利用申請書に記載した目的以外に資料を利用しないこと。
- (2) 係員の指示に従って資料を取り扱うこと。
- (3) 資料の借受及び返納に当たっては、係員立ち会いのもとで、資料の確認、点検を行うこと。
- (4) 特別利用に伴って必要となる経費は、特別利用する者が負担すること。

（損害賠償）

第6条 資料の特別利用を受けた者が、資料を損傷又は亡失したときは、速やかに館長に届け出てその指示するところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

様式第1号～第3号（省略）

●徳島県立博物館資料寄託取扱要綱

制 定 平成3年12月1日

（趣旨）

第1条 この要綱は、徳島県立博物館管理規則（平成2年徳島県教育委員会規則第9号）第7条の規定に基づき、博物館資料（以下「資料」という。）の寄託に関する取扱について必要な事項を定めるものとする。

（手続）

第2条 徳島県立博物館に資料を寄託しようとする者（以下「寄託者」という。）は、あらかじめ徳島県立博物館

長（以下「館長」という。）に資料寄託申請書（様式第1号）を提出し、資料寄託許可証（様式第2号）の交付を受けなければならない。

2 館長は、資料の寄託を受けたときは、寄託者に資料受託書（様式第3号）を交付するものとする。

3 寄託者に寄託資料を返還するときは、資料受託書と引き替えに行うものとする。

（許可基準）

第3条 館長は、資料の寄託の申請があったときは、次の各号のいずれかに該当する資料について受け入れるものとする。

(1) 国指定文化財及び県・市町村指定文化財に指定されている資料、若しくはそれに準ずる資料

(2) 博物館資料として展示等に活用できる資料

(3) 博物館資料として保存すべき価値が高く、かつ現状のままでは資料の保存が危惧される資料

(4) その他、館長が特に必要と認める資料

（寄託期間等）

第4条 資料の寄託期間は、5年とする。

2 寄託者が、寄託期間満了後において引き続き資料を寄託しようとする場合は、改めて第2条による手続を行わなければならない。

3 寄託者が、寄託期間満了以前に寄託資料の返還を求めるときは、返還を希望する日の30日前までに館長に申し出なければならない。

4 寄託者は、寄託期間内に寄託資料の所有権に変更があったときは、速やかに館長に申し出なければならない。

5 館長は、前項の申し出を受けたときは、新たに所有権を有することになった者と協議し、引き続き資料の寄託を希望する場合は、改めて第2条による手続を行うものとする。

（寄託資料の特別利用）

第5条 徳島県立博物館又は第三者が、徳島県立博物館資料特別利用要綱に基づく寄託資料の特別利用をしようとするときは、あらかじめ寄託者の承諾を得なければならない。

2 第三者が寄託資料を特別利用しようとするときは、寄託者の承諾を得た後、資料特別利用要綱に基づく手続を行い、館長の許可を得るものとする。

（経費等）

第6条 寄託資料の運搬等に要する費用については、寄託者が負担するものとする。

2 寄託資料の保管料については徴収しない。

3 寄託資料に補修等の必要が生じたときは、館長と寄託者と協議して行うものとする。

（管理）

第7条 寄託資料の管理は、徳島県立博物館が所蔵する資料に準じて行うものとする。

様式第1号～第3号（省略）

徳島県立博物館年報 第7号 (平成9年度)

平成10年(1998)6月30日 発行

編集・発行：徳島県立博物館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山
(文化の森総合公園内)

TEL (0886) 68-3636 FAX (0886) 68-7197

印 刷：(株)教育出版センター
